

関西医科大学 広報



牧野キャンパスに竣工した新学舎

リハビリテーション学部 開設

Vol.53

CONTENTS

トピックス：リハビリテーション学部開設 P.1

トピックス：入学式 P.6

法人：看護専門学校発展的閉校
記念式典 P.14

大学：看護学部教員保健所支援 P.23

大学：研究ブランディングシンポジウム開催 P.30

病院：看護師特定行為技能研修修了 P.35

単科医科大学から3学部を持つ医療系複合大学へ —リハビリテーション学部開設にあたり—

理事長 山下敏夫

令和3年4月1日、待望のリハビリテーション学部が開部しました。皆様も既にご覧になったと思いますが、本学ではこの機会に、主要新聞4紙に「次の一手を次々と」(図1)と題した広告を出しました。その冒頭の文章を「これからの医療に不可欠なもの。それは、チーム医療です。関西医科大学は、そんな時代を見据えて、この春、リハビリテーション学部を開設。90年以上の歴史を誇る医学部、平成30年に開設した看護学部と共に、医療系複合大学として、新たなステージを迎えます。」とし、設立の必要性を端的に述べました。リハビリテーション学部開設にあたり、本学が単科医科大学から3学部を持つ医療系複合大学へと至った意義と経緯を、この機会にさらに詳しくまとめて記述しておくことが新しい2学部の将来にとって大切かと考えました。

1. 看護学部開設の意義と経緯

本学は昭和8年に附属看護婦養成所を開設して以降、時代の要請に応じて専門学校としての教育による看護師養成を90年近く継続し、わが国の看護に貢献している看護師を5,600名以上も輩出してきました。しかし医学・医療の進歩と相まった看護の高度化に対応すべく、また加速する少子高齢化による人口動態の変化から、看護職には医療現場での実践的な看護に加えて、地域での保健、福祉の支援などの多様な役割が求められるようになっていました。平成になってからは看護師需要の増加も伴って全国的に4年制大学の看護学部が相次いで新設され、平成20年頃には私立医科大学でも大多数が4年制の看護学部を設置していました。

本学も枚方に附属病院が開院した平成18年以前から看護学部開設の検討を開始してはいま

したが、当時は文部科学省が定めている新学部設置認可申請に必要な財務条件を満たすにはほど遠い厳しい経営状態でありました。しかしその後の経営努力によって財務状況は急速に改善し、負債率並びに準備資金の設置基準を満たせる見通しが立ったため、平成25年9月に、本学90周年にあたる平成30年度の開設を目指し、理事長直轄「看護学部設立準備作業部会(神崎秀陽部会長)」を立ち上げました。以後6回の作業部会でわが国の看護師教育の問題点や本学が育成すべき看護師像に関して検討を重ね、さらに世界看護師協会会長も務められたわが国の看護学界の重鎮である南 裕子高知県立大学学長(現 神戸市看護大学学長)からの貴重な助言もいただきました。学部定員は100名で全員が保健師国試受験も可能なカリキュラムとし、通常は学部完成年度後に申請する大学院(修士及

び博士課程)の同時開設を目指す方針となりました。同時開設の申請作業は非常に複雑かつ困難となるものの、優秀な教員を確保して教育のレベルを高め、高度な看護実践者・教育者を育成するためには大学院開設が非常に重要でありました。平成27年4月に看護学部設置準備室(神崎秀陽室長)を開設して文部科学省の関係部署と相談しながら申請作業を進めました。看護学部棟は、当初は医学部棟に近接したやや狭小な敷地での建設を検討していましたが、幸運にも平成27年7月に校地に南接した土地が確保できたため、6階建、延床面積5,400㎡の新看護学部棟の建設が可能となりました。平成28年4月からは教員予定者を複数名加えた準備室でカリキュラムの詳細策定や学外実習施設確保などを進め、学部長予定者の片田範子兵庫県立大学副学長と緊密に連携しながら平成29年3月に設置申請書を文部科学省に提出し、同年8月末に平成30年4月の開設が認可されました。

この看護学部は順調に経過し、令和3年度の志願者倍率は12倍にまでなり、令和3年4月に4学年400名が揃い、また大学院生も46名になっています。なお、長い歴史を有する附属看護専門学校は、看護学部開設に伴い令和3年3月31日をもって発展的閉校となりました。本学の看護精神は、附属看護専門学校から看護学部へと教育の場を変え、新たな形で引き継がれております。

2. リハビリテーション学部開設の意義と経緯

世界随一の高齢化率に達しているわが国には、長寿先進国に相応しい医療・保健・福祉

次の一手を、
次々と。

これからの医療に不可欠なもの、それは、チーム医療です。関西医科大学は、そんな時代を見据えて、この春、リハビリテーション学部を開設。90年以上の歴史を誇る医学部、2018年に開設した看護学部と共に、医療系複合大学として、新たなステージを迎えます。

日々高度化、複雑化する医療に臨むために、次の手段を考へ、進化を続ける関西医科大学。その姿勢は、世界にも評価され、タイムズハイエデュケーションの世界大学ランキングにおいて、関西圏で京都大学、大阪大学に次ぐ第3位に2年連続で選ばれています。

リハビリテーション学部、全専スタート、牧野キャンパスに新学舎が完成。

関西医科大学 KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

■東方キャンパス ■総合医療センター ■香里病院 ■くずし病院

図1 新聞4紙掲載の全ページ広告

サービスの提供体制を創出し、その成果を全世界に発信する責務があります。本学は、介護を含めた在宅療養者への医療ニーズに対応するために、4病院にそれぞれ訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンター等を配置し、計14の関連事業所を持っています。こうして急性期から回復期・生活期に渡る高度なシームレスケアを提供する大学病院となりました。これらの医療現場は、リハビリテーション専門職の教育に最適であるだけでなく、医学生や看護学生の学びの場としても重要な役割を担っています。そして、看護学部・大学院看護学研究科の設置によって医療系複合大学へ進化した本学の更なる社会的使命として、本学創設の地である牧野キャンパスに新学部を設置し、地域社会での活動を支えることで健康寿命延伸

に直接的に寄与するリハビリテーション専門職養成を検討するに至りました。

新学部設置に向けた会議を重ねる中で、医療福祉大学として最も長い歴史を持つ川崎医療福祉大学の椿原彰夫学長から、理学療法・作業療法を含む各医療関連職の将来性や学部構成、学生定員数等について貴重な助言をいただきました。超高齢社会での介護・福祉における医療的支援の強化を目指す本学の方針に基づいて、新学部定員は理学療法学60名、作業療法学40名とし、平成29年9月に理事長直轄「新学部設置検討作業部会(長谷公隆部会長)」を設置しました。以後6回の作業部会にて、リハビリテーション学部を理学療法学科と作業療法学科とを設置し、大学院は学部完成後に申請することとして教員構成と定員数を決定しました。学舎として牧野キャンパス旧施設利用を検討しましたが、耐震構造等を考慮して6階建、延床面積約5,500㎡の新リハビリテーション学部棟建設の方針と

なりました。平成30年4月にリハビリテーション学部準備室(長谷公隆室長)を開設し、文部科学省の関係部署と相談しながら申請作業を進めました。近未来のテクノロジーを駆使したリハビリテーション診療を担う指導者養成を目指して、「先端リハビリテーション医学」「国際リハビリテーション学」などの特色あるカリキュラムを設定しました。ところが、新型コロナウイルス感染症によって大学設置・学校法人審議会での審査が遅れたため、開学認可は令和2年10月下旬となり、残念なことに入試案内等の広報活動が著しく制約されました。学部長には本学整形外科学講座の飯田寛和名誉教授を迎え、本学創設時の学舎の面影を玄関に残したりリハビリテーション学部棟は、本学の医学教育の歴史を引き継ぐ学びの場として、令和3年4月、理学療法学科59名、作業療法学科18名の新生を迎えました。

本学ではご承知のように健康維持を担う附属病院健康科学センター、予防医療のための天満橋総合クリニック、特定機能病院で高度急性期医療を担う附属病院、高度急性期から急性期医療の総合医療センター、急性期と地域医療の香里病院、ケアミックス型のくずは病院、そしてそれぞれに属する前述の介護・在宅医療14事業所があり、健康から在宅医療までシームレスに地域包括ケアシステムに取り組んでいます。この体制を遂行、維持、進化させるためには高度な医療人の育成が必須で、90年の歴史を持つ医科大学のアカデミアを、看護師、理学・作業療法士教育に展開し、チーム医療を進化させることは、さらに高度で良質な医療の充実につながると思います。

結論として、本学が単科医科大学から看護学部、リハビリテーション学部を加えて3学部の医療系複合大学に移行することで、今後ますます高齢化する社会を「健康で長生き」する社会への転換に貢献できると信じます。

リハビリテーション学部開設

令和3年4月、リハビリテーション学部を開設しました。

【リハビリテーション学部概要】

開設時期	令和3年4月
開設場所	関西医科大学牧野キャンパス(大阪府枚方市宇山東町18-89)
修業年限	4年
定員(1学年)	理学療法学科60名 作業療法学科40名
取得学位	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学士(理学療法学) : Bachelor of Physical Therapy ■ 学士(作業療法学) : Bachelor of Occupational Therapy
取得可能資格	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理学療法士国家試験受験資格 ■ 作業療法士国家試験受験資格

教育理念

建学の精神である「慈仁心鏡」に基づき、何らかの障がいを持つことで生活が制限された人々が社会で自分らしく生活できることを支援する専門的知識・技術を習得し、社会に貢献できる柔軟な創造力・行動力をもつ人材を育成する。

リハビリテーション学部棟竣工式挙行

2月16日(火) 11時から、牧野キャンパスにおいて関西医科大学リハビリテーション学部棟竣工式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症の影響で出席者を限定して感染対策に留意し、リハビリテーション学部棟2階のラーニングコモンズで神事が行われました。竣工式には、山下敏夫理事長、友田幸一学長、澤田敏常務理事、神崎秀陽常務理事、前田建設工業株式会社関西支店諏訪俊雅支店長(常務執行役員)、同社同支店鈴木章夫副支店長(執行役員)他24名が参列。その後希望者を対象に、竣工した学舎の施設見学が行われました。



祝詞を上げる斎主



玉串拝礼を行う山下理事長

リハビリテーション学部教授紹介

令和3年4月開設のリハビリテーション学部教授を紹介いたします



学部長 飯田 寛和 教授

専門分野 整形外科学

令和3年4月よりリハビリテーション学部(理学療法学科・作業療法学科)が新設されました。関西医科大学の地である牧野に立派な新学舎が建設され、設立準備室の多大なご努力により学部運営の準備が整いました。多方面から集われた気鋭の教員の方々と共に今後、高度かつ最先端のリハビリテーション医学や、臨床の最前線における知見を反映した学びを通じて、広い視野と行動力のある有能な専門職を育成したいと考えております。

本学部設立により、医療系複合大学として医学部・看護学部と共に学ぶチーム医療と、急性期医療から地域在宅支援まで幅広くカバーする地域包括ネットワーク環境が充実して、「人」を尊重する保健・医療・福祉の多職種連携の中で活躍できる医療人が育っていくことを楽しみにしております。今後とも宜しく願いいたします。



理学療法学科科長 池添 冬芽 教授

専門分野 地域理学療法学

このたび、リハビリテーション学部理学療法学科の学科長を拝命いたしました。今後は附属医療機関、医学部、看護学部と連携しながら、医療・保健福祉・行政等の様々な分野で多様なニーズに対応すべく広い視野を持って活躍できるリハビリテーション専門職を育成したいと思っております。研究につきましても地域理学療法学・高齢者理学療法学の発展に寄与する研究成果を発信できるよう精進してまいります。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



作業療法学科科長 吉村 匡史 教授

専門分野 精神医学

このたび、本学の医学部精神神経科学講座から作業療法学科に着任致しました。これまで精神疾患、認知症疾患、がんに伴う精神的苦痛を持つ患者さんの診療に携わりつつ、教育、研究に従事してまいりましたが、引き続きこれらの領域を学ぶことの大切さ、面白さを伝えるべく尽力致します。また、優れた人材を輩出して保健・医療・福祉に貢献することで本学部・学科の魅力を一層高め、本学部がより多くの受験生に選ばれるよう取り組んでゆく所存です。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



理学療法学科 佐藤 春彦 教授

専門分野 基礎理学療法学(運動学)

コロナ禍で社会の変革が迫られる中、理学療法のあり方も問われています。この時期にリハビリテーション学部開設に合わせて着任できることは、教育でも研究でも思い切ったことに挑戦するよい機会と捉えています。私はこれまで運動計測技術を武器に、小児から高齢者まで、成長・加齢に伴う運動機能の変化を調べ、障害予防へとつなげる取り組みを行ってまいりました。こうした経験を生かし、諸先生方にご協力を仰ぎつつ、教育、研究を進める所存です。ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



中野 治郎 教授

専門分野 物理療法学、がんリハビリテーション

私は準備室の段階からリハビリテーション学部の設置に関わらせていただきました。そして諸先生方のご指導のおかげで開校を無事に迎えられ、安堵感、期待感、使命感といった様々な感情がこみ上げてきます。しかし達成感を味わうのは、学部が完成する4年先までとっておき、心を引き締め直して教育に励みます。また自分が取り組んできたがんリハビリテーションの研究も一層推進して参りますので、今後ともご指導のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医学部入学式



告辞を述べる友田学長

4月5日(月) 13時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「令和3年度医学部入学式」が行われ、127名の新入生が医学の道への第一歩を踏み出しました。

また、医学部入学試験最優秀成績者に送られる「藤森民子賞」の授賞式が合わせて執り行われ、受賞者の津田直輝さんに賞状と副賞500万円の目録が贈呈されました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

春爛漫の季節、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

本日、127名の新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

皆さんは3,840名の受験生の中から競争率30倍という難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様には心からお祝いを申し上げます。

ただ、新型コロナウイルス感染防止を考慮して、本式典を縮小して行わなくてはならなくなりましたこと、大変残念な思いであります。医育機関としての認識と立場を考えた上での決断とご理解をいただきたいと思っております。特に学業や生活を支援してこられたご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただ

くこととなり、大変申し訳なく思っております。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょうか。そこで母校となる関西医科大学とはどういう大学かについて紹介します。

本学は昭和3年に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年に男女共学制を取り現在の関西医科大学となりました。今年で創立93年を迎え、卒業生総数は8,582名からなる輝かしい歴史と伝統のある大学です。

本学は創立90周年を機に、さまざまな事業を展開してきました。今年、新たにリハビリテーション学部が開設され看護学部を含む3学部複合大学となります。また国際交流センターや留学生、患者家族の宿泊機能を備えたタワー棟の完成、そして来年には最新の

がん治療をめざす「光免疫医学研究所」が新設されま
す。7年後の100周年を目標にさらに進化を遂げてま
います。

一方、国際的にもTHE世界大学ランキングに3年
連続でランクインし、今年の世界で800位内、国内の
全私立大学で第4位、関西の私立大学で第1位とな
りました。来年には国際大学院が開講するなど「世界
に開かれた大学」を目指しています。

医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、
患者さんから学ぶ場となります。本学には附属の4病
院があります。この学舎に隣接する附属病院は大阪府
下でトップにランキングされた病院で、高い評価を得
て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。

その他、日本で唯一の広大なホスピタルガーデンを
有する総合医療センター、地域に密着した香里病院、
そして4つ目は、回復期リハビリテーションを中心と
したくずは病院があり、さらに人間ドックなど予防医
療を担う天満橋総合クリニックを合わせると、総病床
数は1,521床になります。これらすべての病院は、先
進医療だけでなく介護・福祉、リハビリテーションな
ど地域包括医療体制を整え、実践している唯一の大学
病院で、これからの「人生100年時代」に向けて健康
長寿を推進しています。これらの施設が皆さんの臨床
医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場な
ります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、
大きく変革を遂げ、その後も躍進を続けていることを
しっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本
学に入学されましたが、大学に入ることがゴールでは
ありません。単にスタートラインについたに過ぎませ
ん。医師になる2000分の1歩がこれから始まろうと
しています。「病で苦しんでいる人を一人でも救いた
い」という気持ちでこの医学の世界を選んだことと思
います。人の命を預かる医師に妥協は許されません。
また今回の新型コロナウイルスのように新たな病原体
との戦いは人類の永遠の課題であり、医師は常にその
最前線で患者の治療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持
ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲
しいと思います。

本学の建学の精神は「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・

めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する
で、学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を
心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、
自由・自律・自学の学風のもと、生涯にわたり地域社
会に貢献し、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際
的視野をもつ人間性豊かな良医を育成することを教育
の理念としています。この精神をひと時も忘れること
なくこれからの6年間、教養を深め、医師として必要
な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人
間性を身につけ、そして病める人の気持ち・感情が共
感できる、良医をめざして勉学に励んでください。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性
を引き出す場でもあります。持っている才能や個性に
さらに磨きをかけてください。1学年ではノーベル賞
を受賞された山中伸弥先生の特別講義があります。将
来科学者を目指す研究医養成コースや、医系技官、医
務官を目指す医系技官養成コース、6年生では海外臨
床実習留学などがあります。また本学にはたくさんの
クラブ活動があります。部活動を通じて、多くの友人
と素晴らしい人間関係を築いてください。但し、勉学
と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把
握し、本来学ぶべき医学の勉強を最優先することを忘
れないでください。

最後に、医学生であると同時に社会人であるという
自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょ
う。挨拶の「あ」は、明るく、「い」は、いきいきと、
「さ」は、さわやかに、「つ」は、常に自らです。これ
は礼儀の基本です。そして身だしなみにも注意してく
ださい。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあ
ることを忘れないでください。

今こうしているときも、病院ではコロナ患者さんの
治療に昼夜を問わず頑張っています。感染者が急増す
る中、皆さん一人ひとりが自覚をもって、自分は感染
しない、人にうつさないよう注意することで、逼迫す
る病院スタッフの負担を減らすことができます。将来、
医師になる心構えを常に忘れず行動してください。
そして関西医大人としての誇りと気品を持って精
励されることを願い、私の告辞とします。本日はご入
学誠におめでとうございます。

看護学部・大学院看護学研究科入学式



告辞を述べる友田学長

4月3日(土) 10時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「令和3年度看護学部・大学院看護学研究科入学式」が挙行され、看護学部100名、大学院看護学研究科博士前期課程9名、大学院看護学研究科博士後期課程5名、計114名の新入生が入学しました。

今年度は、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止のため、参列者の人数を制限し感染対策に留意した形での開催となりました。友田幸一学長の告辞に続き片田範子看護学部長・大学院看護学研究科長が新入生への期待と励ましの言葉を贈った後、新入生代表学生が宣誓を行いました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

うらかな春の季節を迎え、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

看護学部生100名、看護学研究科大学院博士前期課程9名、博士後期課程5名の皆さんを迎えて、創立4年目の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

皆さんは厳しい入学試験の難関を突破して見事に合格されました。ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様には心からお祝いを申し上げます。

ただ今回は、新型コロナウイルス感染防止を考慮して、本式典を縮小して行わなくてはなくなりましたこと、大変残念な思いであります。特にご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただくこと

となり、大変申し訳なく思っております。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学かについてまずお話しします。

本学は昭和3年に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして昭和29年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立93年を迎え、医学部の卒業生総数は8582名からなる輝かしい歴史と伝統のある大学です。

創立90年以上の歴史を誇る関西医科大学が3年前に看護学部の設立を決断したのは、これからの時代を動かしていく医療人には、医学と看護学の両輪が必須であり、双方が互いに協働し、補い合うだけでなく、それぞれの専門性の高い知識と技術を互いに活かし、よ

り高度な医療を実践することが何よりも重要であると
考えたからです。

これから皆さんが学ぶ看護学部棟は、最新の教育環
境と設備が整っています。またシミュレーションセン
ター、図書館、食堂など医学部棟のいくつかの施設も
共有することになります。今年からもう一つ新しくリ
ハビリテーション学部が開部し、3学部複合大学とな
ります。また国際交流センターや留学生、患者家族の
宿泊機能を備えたタワー棟の完成、そして来年には最
新のがん治療をめざす「光免疫医学研究所」が新設さ
れます。

一方、国際的にもTHE世界大学ランキングに3年
連続でランクインし、今年の世界で800位内、国内の
全私立大学で第4位、関西の私立大学で第1位となり
ました。来年には国際大学院が開講するなど「世界に
開かれた大学」を目指しています。

医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、
患者さんから学ぶ場となります。本学には附属の4病
院があります。この学舎に隣接する附属病院は大阪府
下でトップにランキングされた病院で、高い評価を得
て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。

その他、日本で唯一の広大なホスピタルガーデンを
有する総合医療センター、地域に密着した香里病院、
そして4つ目は、回復期リハビリテーションを中心と
したくずは病院があり、さらに人間ドックなど予防医
療を担う天満橋総合クリニックを合わせると、総病床
数は1521床になります。これらすべての病院は、先
進医療だけでなく介護・福祉、リハビリテーションな
ど地域包括医療体制を整え、実践している唯一の大学
病院で、これからの「人生100年時代」に向けて健康
長寿を推進しています。これらの施設が皆さんの臨床
・看護学教育の、そして将来の看護師としての活躍
の場になります。このように皆さんが入学する関西医
科大学は、大きく変革を遂げ、その後も躍進を続けて
いることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本
学に入学されましたが、大学に入ることがゴールでは
ありません。単にスタートラインについたに過ぎませ
ん。看護師になる1500分の1歩がこれから始まろう
としています。皆さんは「病で苦しんでいる人を一人
でも救いたい」という気持ちでこの看護の世界を選ん

だことと思います。皆さんはこれまでに人に善いこと
をしたことがあると思います。その時、相手の方に感謝
されたと思います。あなた自身も「喜んでもらえ
て良かった」と感じたことと思います。これはオキシ
トシンと呼ばれる愛情ホルモンが脳から分泌されるか
らです。良好な対人関係が築かれているときに分泌さ
れ、善いことをした人もされた人にも出ます。人も含
め感情を持つ動物の同類愛の一つの表現のためだから
です。このような気持ちを決して忘れず、病める人の
気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える看護師に
なって欲しいと思います。

さて、本学の建学の精神は「慈仁心鏡」、すなわち
慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育
成する」で、学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(め
ぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精
神に則り、幅広い教養と高い倫理観・人間愛を基盤に、
人々の生命・健康・生活を統合した専門的知識・技術
を備えた看護力で、社会に貢献できる柔軟な創造力・
行動力をもつ人材を育成することを教育の理念として
います。

この精神をひと時も忘れることなくこれからの4年
間、勉学に励んでください。そして、学生であると同
時に社会人であるという自覚を持って行動してくださ
い。まず挨拶をしましょう。挨拶の「あ」は、明るく、
「い」は、いきいきと、「さ」は、さわやかに、「つ」は、
常に自らです。これは礼儀の基本です。もう一つは身
だしなみにも注意してください。本当の自由はきちん
とした規律の中にこそあることを忘れないでくださ
い。

今こうしているときも、病院ではコロナ患者さんの
治療に昼夜を問わず頑張っています。感染者が急増す
る中、皆さん一人ひとりが自覚をもって、自分は感染
しない、人にうつさないよう注意することで、逼迫す
る病院スタッフの負担を減らすことができます。将
来、看護師になる心構えを常に忘れず行動してくだ
さい。

最後に、新入生の皆さんは、関西医大人としての誇
りと気品を持ち、鏡とされるよう精励されることを願
い、私の式辞といたします。本日は誠におめでとうご
ざいます。



学部長・研究科長挨拶を行う片田看護学部長・大学院看護学研究科長

看護学部長・大学院看護学研究科長挨拶

学部長・研究科長 片田 範子

入学を許可された学部新生100名の皆様、大学院博士前期課程9名、博士後期課程6名の皆様、おめでとうございます。ご家族の皆様も皆様が無事にこの日を迎えられたこととお喜びのことと思います。

皆さんとともに出発出来ることは看護学部教職員一同、嬉しく思っています。

令和3年4月、関西医科大学看護学部、看護学研究科は出発して4年目を迎え、学部に4学年がそろいました。大学院は既に一昨年度に博士前期課程、昨年度に博士後期課程が修了生を出し、大学を所轄する文部科学省用語で言いますと完成年次を超えています。

しかし、関西医科大学での看護教育の歴史は90年を迎えたこととなります。今年の3月をもって関西医科大学看護専門学校が最後の卒業生を出し、学校は閉じられることとなりました。専門学校の同窓生は発展的過程として関西医科大学に看護学部を設置されることを望まれ、法人はそれを看護学部の設置として新たな出発を選択されて、本日を迎えています。看護学部の4年目は90年の歴史の一コマであり、時代を見据え、望まれた発展の意思を引き継ぎ、時代を先駆ける覚悟を以て進んでいます。

時を同じくして、昨年からの世界的コロナ感染症の蔓延は生活様式の刷新を迫っています。医療と経済が

現実的に人の命と生活を守る上で不可欠な時代となっていることも今我々が学んでいるところです。そのような時代の中で、皆さんは果敢に看護の道を選択されていることに、私は希望を見ます。人々の苦悩の最前線に立ち、人々が生活を守れるよう知識と感性を以て寄り添う事を学ぶことを選択されたことに敬意を表したいと思います。

学部・大学院の皆さま、時代が要請する新たな生活様式は容赦なく学生生活へも影響を及ぼします。友達探し、仲間づくりは人と人の距離を縮めて構築されるものですが、物理的距離を保ってその作業をすることを求めるという矛盾した現実が生じています。皆さんはIT環境や機器を駆使することをこれまでの教育で学び始めた時代の人たちです。皆さん方が作り上げるダイナミックな人間関係を教員に教えてください。時代を先取りしている教員や先輩は一杯いますので、お互い協力しながら、先駆け、作っていけるようお願いいたします。

本日は、誠におめでとうございます。

最後となりましたが、入学式に際しご同席下さいました、理事長をはじめ理事の皆様方に感謝申し上げます。

リハビリテーション学部入学式



新入生紹介を受ける友田学長

4月3日(土) 14時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「令和3年度リハビリテーション学部入学式」が挙行され、リハビリテーション学部77名の新入生が入学しました。

開設年度となる今年度入学した一期生に向け友田幸一学長が告辞を述べ、続けて飯田寛和リハビリテーション学部長が新入生への期待と励ましの言葉を贈った後、新入生代表学生が宣誓を行いました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

桜花満開の今日、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

本日、理学療法学科59名、作業療法学科18名の皆さんを迎えて、リハビリテーション学部創立初年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。またご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚くお礼を申し上げます。

皆さんは厳しい入学試験の難関を突破して見事に合格されました。ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様には心からお祝いを申し上げます。

ただ今回は、新型コロナウイルス感染防止を考慮して、本式典を縮小して行わなくてはならなくなりまし

たこと、大変残念な思いであります。特にご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただくこととなり、大変申し訳なく思っております。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょうか。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学かについてまずお話しします。

本学は昭和3年に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして昭和29年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立93年を迎え、医学部の卒業生総数は8,582名からなる輝かしい歴史と伝統のある大学です。

これから皆さんが学ぶリハビリテーション学部棟



は、本学発生の地、牧野に新築されました。緑豊かな環境に恵まれた場所で、最新の教育環境と設備が整っています。4年前に開部した看護学部と合わせ3学部複合大学となります。

一方、国際的にもTHE世界大学ランキングに3年連続でランクインし、今年の世界で800位内、国内の全私立大学で第4位、関西の私立大学で第1位となりました。来年には国際大学院が開講するなど「世界に開かれた大学」を目指しています。

医科大学にとり附属病院はリハビリテーション学教育の原点であり、患者さんから学ぶ場となります。本学には附属の4病院があります。この学舎に隣接する附属病院は大阪府下でトップにランキングされた病院で、高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。

その他、日本で唯一の広大なホスピタルガーデンを有する総合医療センター、地域に密着した香里病院、そして4つ目は、回復期リハビリテーションを中心としたくずは病院があり、さらに人間ドックなど予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせると、総病床数は1,521床になります。これらすべての病院は、先進医療だけでなく介護・福祉、リハビリテーションなど地域包括医療体制を整え、実践している唯一の大学病院で、これからの「人生100年時代」に向けて健康長寿を推進しています。これらの施設が皆さんの臨床・リハビリテーション教育の、そして将来の理学・作業療法士としての活躍の場になります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、大きく変革を遂げ、その後も躍進を続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学されましたが、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。理学・作業療法士になる1500分の1歩がこれから始まろうとしています。私ども教員は、本学の医療施設を活かし、超高齢社会を視野に、身体的な機能回復だけでなく、高次脳機能やメンタルのリハビリなど高度な専門職の育成のために、さらなる高みをめざしています。

本学の建学の精神は「慈仁心鏡」、すなわち「慈しみ・



新入生代表による宣誓

めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」で、学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、人としての優しさと豊かさに満ちた医療人として、より実践に則した新しいリハビリテーション医学を学び、ひとりでも多くの患者さんの支えになって、共に病いを克服するという志を高く持ってこれからの4年間、勉学に励んでください。

そして、学生であると同時に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。挨拶の「あ」は、明るく、「い」は、いきいきと、「さ」は、さわやかに、「つ」は、常に自らです。これは礼儀の基本です。もう一つは身だしなみにも注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にごそあることを忘れないでください。

今こうしているときも、病院ではコロナ患者さんの治療に昼夜を問わず頑張っています。感染者が急増する中、皆さん一人ひとりが自覚をもって、自分は感染しない、人にうつさないよう注意することで、逼迫する病院スタッフの負担を減らすことができるのです。将来、医療従事者になる心構えを常に忘れず行動してください。

最後に、新入生の皆さんは、関西医大人としての、そしてリハビリテーション学部1期生としての誇りと気品を持ち、鏡となれるよう精励されることを願い、私の式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。



学部長挨拶を述べる飯田学部長

リハビリテーション学部長挨拶

学部長 飯田 寛和

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

特に今年の新入生の方々は、新型コロナパンデミックの中、大学入学への準備に、大変な状況であったと思います。その中でこの4月に新設の、関西医科大学リハビリテーション学部の第一期生になられたことは、大変喜ばしくお祝いを申し上げます。関西医科大学は、90年を超える長い歴史を経て、革新の歩みを進めてきました。この20年間に学舎、附属病院は新築され看護学部も設立されました。社会的背景として、医療経済の変化や高齢化社会への移行など、大きな環境変化の中で教職員の努力が実って本学部が新設され、今日の良き日を迎えられたわけです。

皆さんがリハビリテーション学部で学ぶことを決められたのはいろいろな理由があると思います。障害をもった患者さんの役に立ちたい、ご家族や自分自身が怪我や病気をしてその時世話になったことがきっかけ、怪我から回復したスポーツ選手が活躍しているのを見てこの世界に生きたいと思った、などがあると思います。この道を選ぶのは初めての世界に踏み込むことですから不安があるかと思いますが、どのような動機でも自分が選んだ仕事で人の笑顔を見ることができるとは幸せです。楽しいことばかりではありません。苦しいことも多いでしょうが、皆さんがこれからやりがいと生きがいを感じられる専門職になれるよう一緒に頑張っていきましょう。

リハビリテーション医学は他の医学に比べてややあたらしく、最近その役割を大きく拡大し発展しています。例えば脊髄損傷で下半身完全麻痺になった患者さんは、手の施しようがなく失意の余生を強いられていたわけですが、73年前グッドマン先生が障害者のスポーツ大会を始められたのは、脊髄損傷で失意のどん底にある患者さんの身体的・精神的な回復意欲の獲得に有用である、という信念からです。はじめは切断や下半身麻痺など、限られた病気の患者さんの機能の改善や能力の再獲得が中心でしたが、その後いろいろな医療を行う中で単に病気を治すだけでなく患者さんの人

としての回復をよりよくするためには、リハビリテーション医学的取り組みが大切であり役に立つことが明らかになってきました。今では目の前の困難や不安を抱えているいろんな病気や障害をもつ方々に対して、保健・医療・福祉をまとめて解決しようという取り組みがなされ大きく発展してきました。

その一環として、医師・看護師だけでなく、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・医療ソーシャルワーカーなど多くの専門職が広くかかわって、集団的なアプローチつまりチーム医療がおこなわれています。チーム医療ではお互いの理解と協力が大切です。その世界に皆さんは、これから飛び込み理学療法士、作業療法士として活躍されることを期待されています。そこではみずから考え行動することが要求されます。

私は今まで多くの医師や専門職と共に医療を行って来ましたが、その中で最も大切なことの一つは、今しようとしている医療行為や患者さんの置かれた状況を「自分がしっかり理解しているかしていないか」を自覚できる能力です。理解していないことをあいまいにせず、「これはわかりません。なぜですか?」と質問ができる能力とか心構えです。これは簡単なようで難しいですから少しずつ勉強してほしいと思います。

皆さんがこれまで受けてきた学校教育では、受け身の姿勢が多かったのではないかと思います。これからは少しずつでも自ら学び質問し行動するという生活習慣にギアチェンジして頂きたいと思います。少なくとも今までの試験点数よりも達成感や生きがいがある世界が待っています。指導する側の教員もそこに楽しみとやりがいを感じているのです。

皆さんには自然に囲まれた牧野キャンパスに新築された学舎での学生生活を十分に楽しみながら、関西医科大学リハビリテーション学部一期生としての誇りを持ち今後後輩の手本となるような伝統を作って頂くことを期待して、学部長としてのお祝いの挨拶とさせていただきます。

ご入学おめでとうございます。

附属看護専門学校発展的閉校記念式典

3月20日(土・祝) 11時から枚方学者医学部棟加多乃講堂において「附属看護専門学校発展的閉校記念式典」が挙行政され、山下敏夫理事長、友田幸一学長、附属看護専門学校楠本健司学校長ほか関係者61名が参加しました。

当初本式典は懇親会も挙行政される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い懇親会を取りやめ、式典参加者数も絞って縮小した形での開催となりました。

まず、山下理事長が式辞として本学における看護師養成の歴史を振り返り、附属看護専門学校が看護師養成の中核を担い、これまで5,626名の卒業生を輩出し様々な看護の分野で活躍していること、近年は看護師国家試験にほぼ100%で合格していることなどを説明した後、今後は看護学部がその良き伝統を引き継ぐことで、次代へのバトンを引き継げることに對し、教職員の努力と関係者の支援に感謝の意を表しました。



式辞を述べる山下理事長

続いて枚方市伏見隆市長、寝屋川市広瀬慶輔市長、守口市西端勝樹市長から事前に寄せられたメッセージが読み上げられた他、大阪府看護協会会長、大阪府看護連盟会長、本学附属病院看護部師長会・副師長会、総合医療センター看護部師長会・副師長会、香里病院看護部師長会・副師長会からもメッセージが寄せられたことが紹介されました。

その後、附属看護専門学校牛嶋百合子教務部長から挨拶とスライドショーによる附属看護専門学校の紹介がありました。まず、看護学校同窓会が作成した本学看護師養成課程の変遷を紹介したDVDが放映され、高殿校舎から牧野校舎に移転した閉校までの8年間



挨拶及びスライド紹介を行う牛嶋教務部長

を、季節ごとのイベントや風景写真を交えたスライドで振り返りました。スライドショー終了後には今回のコロナ禍で叶わなかった校歌の歌唱に変わり、昨年度卒業式で卒業生が校歌を斉唱する姿を収めた映像が放映され、牛嶋教務部長からこれまで関わってきたすべての関係者への謝意とともに、最後の卒業生の国家試験合格100%を願う言葉とともに、挨拶が締めくくられました。

また、楠本学校長から令和3年3月31日をもって附属看護専門学校が閉校する旨の閉校宣言がなされた後、附属看護専門学校の学校旗が楠本学校長から山下理事長へ返還されました。



学校長挨拶及び閉校宣言を行う楠本学校長

最後に楠本学校長が学校長挨拶に立ち、幾多の名称変遷を経て、時代に即した看護専門職を育成してきたことについてこれまで支援してくれた関係者に心から敬意を表し、お礼が述べられた後、自身が学校長を努めた期間と、コロナ禍の中、最後の39期生57名を無事に送り出したことに関して振り返りました。また校歌「ともしび」の最後の歌詞「愛のともしび かかげなん」を引用し今後も附属看護専門学校が培ってきた看護の魂が、多くの卒業生や教職員に受け継がれることを願い、心よりの感謝と参加者の今後の健康を祈念し、挨拶が締めくくられました。



楠本学校長から山下理事長への校旗返還



閉校記念に作成された閉校記念誌(左)と閉校記念ペーパーウェイト(右)

附属看護専門学校は、昭和7年に大阪女子高等医学専門学校附属看護婦養成所開校に端を発し、89年の看護基礎教育の歴史を経て、5,600名を越す卒業生を輩出して参りました。卒業生は、現在も関西医科大学の関連施設にとどまらず、関西圏、全国、さらに海外にて慈しみの心を以って看護師として医療に携わっております。

この度、関西医科大学における看護基礎教育は、看護学部にて発展的に継承されることとなり、附属看護専門学校は令和3年3月をもって発展的に閉校いたしました。

関係各位の皆様には、これまで附属看護専門学校を支え育てていただきましたことを深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

閉校後の附属看護専門学校関連の証明書発行について

附属看護専門学校関連の証明書(卒業証明書・成績証明書等)発行については、令和3年4月1日から看護学部を引き継ぎました。請求方法などについては本学ウェブサイト(<http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/>)をご参照ください。

申請・問合せ先 関西医科大学看護学部事務部

住所：〒573-1004 大阪府枚方市新町2丁目2番2号 電話：072-804-0205

附属病院長就任および腎泌尿器外科学講座教授退任にあたって

附属病院長/腎泌尿器外科学講座前教授 松田 公志



令和3年3月31日に腎泌尿器外科学講座教授を退任し、同4月1日付で附属病院病院長に就任いたしました。

平成3年9月に当時の泌尿器科学講座助教授として着任してから29年7か月、平成7年6月1日に教授に昇任してから25年9か月、本学腎泌尿器外科とともに歩んでまいりました。この間、本学の目覚ましい発展の中で仕事をするのができたのは本当に幸せでした。泌尿器科診療も、腹腔鏡さらにはロボット支援手術が導入され、まさに変革の時代でした。腹腔鏡手術の開発を専門としていたことが幸いし、この間に手術症例数を3倍増にできました。研究では、手術手技分析をテーマとして独自性ある成果を出すとともに、教室員一人一人が研究テーマを持ち、尿路性器癌、尿路結石、副腎、腎移植、アンドロロジーの各分野で多くの成果を発表しました。これらの成果で、日本泌尿器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、国際泌尿器内視鏡学会などの学会を主催できたのは大きな喜びでした。

大学では、平成14年から4年間、教務部長を拝命し、臨床系講義の臓器系統別水平統合とチュートリアル教育の導入を行いました。臓器系統別再編は、現在の6年一貫教育の一部として医学部教育体系に根づくことができました。また副学長として、本学の入試改革の一端を担わせていただきました。

まさにわくわくするような30年間でしたが、ひとえに大学のご支援と教室員の献身的な努力のおかげであり、心からお礼申し上げますとともに、腎泌尿器外科学講座のますますの発展を祈ります。今後は、本学のさらなる発展のために附属病院長として全力で取り組む所存です。引き続きご指導ご支援のほど、お願い申し上げます。

略歴

1978年	京都大学医学部卒業
1979年	大阪赤十字病院泌尿器科医員
1986年	京都大学医学部泌尿器科学講座助手
1991年	関西医科大学泌尿器科学講座助教授
1995年	関西医科大学腎泌尿器外科学講座教授
2010年	関西医科大学附属病院副病院長(併任)
2012年	関西医科大学副学長(併任)
2015年	学校法人関西医科大学評議員・理事(併任)
2021年	関西医科大学附属病院病院長

英語教室主任教授に就任して

英語教室主任教授 Raoul Breugelmans



令和3年4月1日付で関西医科大学英語教室の主任教授を拝命いたしましたブルーヘルマンズ ラウルです。英語教室は、昭和35年に開設され、平成19年に着任された中川淳教授が大きく発展させてこられた教室です。61年の歴史を持つ当教室を引き継がせていただくことは、大変な名誉であると共に、その重責に身の引き締まる思いであります。

私は、ベルギーのアントワープで生まれ育ちました。昭和62年に米国オレゴン大学言語学・日本語学専攻を卒業した後、明治大学大学院修士・博士課程を経て、平成9年から東京医科大学の医学英語担当非常勤教員となりました。平成14年からは常勤教員として医学英語教育、ICT活用教育、医学教育、教育IRなどに携わってまいりました。

医療系大学における英語教育は、「医療人が必要とする英語能力の習得」が教育目標の大前提であります。日本医学英語教育学会が定めるガイドラインにおける「卒業時に全員が習得すべき内容」のみならず、「能力向上

のために習得が望ましい内容」も全学生が身につけられるよう、将来的には、6年一貫の医学英語教育プログラムを目指したいと考えております。ICTや反転授業などを活用し、語学に効果的である新しい学習法を取り入れ、各学年において、他科目の先生方と協力し、同時期に行われる基礎系科目・臨床系科目の内容に医学英語の学習内容を合わせるにより相乗効果を発揮したいと考えております。医学英語教育を通して、プロフェッショナルとして国際的に活躍するために必要な知識と能力を持つ医療人の育成に取り組んでいく所存でございます。関西医科大学の教養系教室、基礎社会系講座、臨床系講座の先生方におかれましては、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

1994年 3月	明治大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得満期退学
1994年 4月	医学翻訳家
1997年10月	東京医科大学国際医学情報センター 非常勤講師
2002年 5月	東京医科大学国際医学情報センター 講師
2005年 8月	東京医科大学国際医学情報センター 助教授
2012年 5月	東京医科大学医学教育学分野 准教授
2018年 4月	東京医科大学英語教室 准教授
2021年 4月	関西医科大学英語教室 主任教授

微生物学講座主任教授に就任して

微生物学講座主任教授 大隈 和



令和3年4月1日付で関西医科大学微生物学講座主任教授を拝命しました大隈和(おおくま かず)と申します。先代の藤澤順一先生が四半世紀以上にわたり牽引してこられた後を引き継がせていただくことは、大変光栄であると同時に重責も感じております。新

型コロナウイルスの世界的流行により人類と病原微生物との関係が改めてクローズアップされるなか、当講座では一丸となって研究・教育に力を尽くして参りたいと存じます。

私は医学部を卒業後、内科医として臨床の現場に身を置くうちに、ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)関連疾患の治療・予防に強く関心を持つようになりました。博士号取得後は、米国への研究留学や大学准教授を経て、前職では国立感染症研究所にて血液製剤やワクチンの品質管理のための国家検定や厚生労働省の審議会など行政関連の業務に従事しながら、HTLV-1をはじめ

種々のウイルスの検査、診断、治療などに関する基礎研究を行ってきました。臨床医・研究者というこれまでの経歴を生かして複眼的な視点から当講座を運営し、良い研究成果を出して国内外の微生物学分野に貢献するとともに、学生の皆さんの知的好奇心を刺激するような講義や実習を行って、次世代を担う臨床医・看護師などの医療人や研究者を育成できるよう鋭意努力していきたいと思ひます。

すぐそばを淀川が流れる美しい景観に恵まれた地に、充実した施設と優れた人材を擁する関西医科大学の一員の名に恥じぬよう邁進する所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

略歴

1991年 5月	九州大学医学部附属病院第一内科入局
1999年 4月	九州大学大学院医学系研究科ウイルス学教室 助手
2001年 5月	米国Yale大学医学部病理学教室 研究留学生
2004年11月	琉球大学大学院医学研究科免疫学分野 講師
2007年11月	琉球大学大学院医学研究科免疫学分野 准教授
2008年 7月	国立感染症研究所血液・安全性研究部第三室 室長
2014年 2月	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室 室長
2021年 4月	関西医科大学医学部微生物学講座 主任教授

形成外科学講座主任教授に就任して

形成外科学講座主任教授 覚道 奈津子



令和3年4月1日付で関西医科大学医学部形成外科学講座の主任教授を拝命いたしました。本講座は昭和63年に初代小川 豊教授により開設され、その後2代目の楠本健司教授により大きく発展され、このたび私が第3代主任教授として講座を引き継がせて頂くことになりました。これまで

の諸先生方の築き上げられた伝統を引き継ぐ重責に身の引き締まる思いでございます。

私は平成14年に関西医科大学医学部を卒業後、2年間の形成外科および麻酔科研修を経て、関西医科大学大学院に入学しました。大学院においては、脂肪幹細胞の機能解析、多血小板血漿を用いた創傷治癒と再生医療への臨床応用をテーマにした研究を行いました。その間、英国King's College London, St Thomas' Hospitalへ留学し、大学院を修了し学位受領後は、本学附属病院にて形成外科学の教育、研究、臨床を行ってきました。形成外科領域の高度先進医療の開発とトランスレーショナルリサーチの展開を行うとともに、主に顔面の眼瞼、鼻、口、耳および被髪頭部などに対する機能と整容性を両立した

再建治療に心がけ携わってまいりました。

私は多分野にわたる形成外科疾患について、学内外とコミュニケーションをとりながら、一人一人の患者さんの症状に合わせた、より安全で効果の高い治療を行えるように精進してまいります。また、個々の教室員の取り組みを尊重しながら、一体感を大切に、将来を見据えた広い視野で次世代を担う形成外科医の育成に取り組んでいく所存です。これからも教室員一同とともに、形成外科のさらなる進歩・発展に全力で取り組みたいと思ひます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

略歴

2002年	関西医科大学卒業
2002年	関西医科大学附属病院 形成外科 研修医
2003年	高槻赤十字病院形成外科 医員
2004年	大阪赤十字病院麻酔科 医員
2004年	関西医科大学大学院医学研究科博士課程入学
2007年	英国King's College London, St Thomas' Hospital 形成外科 留学
2008年	関西医科大学大学院医学研究科博士課程修了 博士(医学)学位受領
2008年	関西医科大学医学部形成外科学講座 助教
2016年	関西医科大学医学部形成外科学講座 講師
2019年	関西医科大学医学部形成外科学講座 准教授
2021年	関西医科大学医学部形成外科学講座 主任教授

腎泌尿器外科学講座主任教授に就任して

腎泌尿器外科主任教授 木下 秀文



令和3年4月1日付で関西医科大学腎泌尿器外科学講座の主任教授を拝命いたしました。初代新谷浩先生、二代小松洋輔先生、三代松田公志先生に次ぐ四代目の教授となります。このような素晴らしい教室を主宰できることは大変名誉なことであり、更なる発展に向けての責務を鑑み、身が引き

締まる思いです。

私は、昭和63年京都大学を卒業後、平成16年に関西医科大学に准教授として着任いたしました。医師のキャリアの半分を関西医科大学で過ごし、多くの先生方に育てていただいたことを深く感謝しています。

私の専門分野はオンコロジーと低侵襲手術です。この分野では、最先端の医療を実践してまいります。当科は「手術の科学的分析」で、日本でもトップレベルの研究成果を上げています。エルゴノミクスの解析から、最適な手術指導法、教育toolなどの開発にもこれまで以上に力を注ぎます。また、がんのバイオマーカーの開発も、基礎の先生方とコラボレーションして進めていきたいと

思っています。

若手医師の教育では、日々の臨床で、疑問を感じる感性、自身で解決する力を身につけることを重視し、さらには、疑問を解決するための臨床研究の立案、実施、発表する能力が育つよう、指導していきます。

私たちの臨床は、地域の先生方と密な連携をとることで成り立っています。今までのご支援に深謝するとともに、今後も地域に根差して、最先端の医療を行ってまいります。

腎泌尿器外科、関西医科大学の発展、さらには地域医療の充実のため尽力する所存でございます。今後とも、これまで以上にご指導よろしくお願い申し上げます。

略歴

1988年 6月～1990年 3月	京都大学病院泌尿器科 研修医
1990年 4月～1993年 3月	倉敷中央病院泌尿器科 医員
1996年11月～1999年 7月	Wisconsin州立大学 Madison校 リサーチフェロー
1999年 7月～2000年 3月	倉敷中央病院泌尿器科 医員
1999年 7月～2000年 3月	大阪赤十字病院 泌尿器科 医員
2000年 3月～2003年 3月	京都大学泌尿器科 助手
2003年 4月～2004年 3月	京都大学泌尿器科 講師
2004年 4月～	関西医科大学 腎泌尿器外科学講座 准教授
2014年 8月～	関西医科大学 附属病院 病院教授
2021年 4月～	関西医科大学医学部 腎泌尿器外科学講座 主任教授

理事長特命教授（香里病院乳腺センター）に就任して

香里病院乳腺センター理事長特命教授 綿谷 正弘



令和3年4月1日付けで香里病院乳腺センター理事長特命教授を拝命いたしました。

私は昭和53年に信州大学卒業後、同年大阪大学第2外科に入局しました。学位取得後昭和60年から2年間米国National Cancer Instituteへ留学しました。帰国後市中病院勤務を経て平成元年に近畿大学第1外科へ移りました。

乳腺内分泌外科部門へ配属となり乳腺外科医としてのキャリアがスタートしました。30年間近畿大学(23年間附属病院、7年間奈良病院)で乳腺内分泌外科医として勤め、平成31年に定年退職となりました。医誠会病院乳腺内分泌外科在職中に関西医科大学外科学講座関本貢嗣主任教授から香里病院での乳癌診療のお誘いを受けました。大学卒業後から今まで多くの人に支えられてきましたが、またこの度も山下敏夫理事長、関本貢嗣教授から関西医科大学との御縁をいただきました。

30年の大学病院勤務の間に教育・研究・診療は大きく様変わりしました。卒前・卒後・専門医を目指した専

門教育で質の高い総合的教育が要求されています。がん研究でもヒトゲノムの完全解読を受け、研究の枠を超えて臨床の場でもがんゲノム医療が欠かせないものとなりました。乳癌診療においても多職種連携でエビデンスに基づく個別化治療が当たり前になりました。これから香里病院で後進の指導と乳腺診療に携わるのですが、一人でできることは限られています。関西医科大学3病院連携で真のプロフェッショナルな乳腺外科医の育成に邁進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

1978年 3月	信州大学医学部 卒業
1978年 7月	労働福祉事業団関西労災病院 外科医員
1980年 7月	大阪大学医学部第2外科 外科医員
1985年 4月	米国National Cancer Institute, NIH, Visiting Fellow
1987年 7月	医療法人三世会河内総合病院 外科医長
1989年 7月	近畿大学医学部附属病院救命救急センター病院講師
1990年 1月	近畿大学医学部第1外科病院講師
1995年 7月	近畿大学医学部第1外科医学部講師
2000年 7月	近畿大学医学部外科学教室 講師
2003年 8月	近畿大学医学部外科学教室 准教授
2008年10月	近畿大学医学部肺乳腺内分泌外科教授
2011年 7月	近畿大学医学部奈良病院乳腺内分泌外科教授
2019年 4月	医療法人医誠会 医誠会病院 乳腺内分泌外科部長
2021年 4月	関西医科大学理事長特命教授香里病院乳腺センター長

理事長特任教授・総合医療センター人工関節センター長に就任して

理事長特任教授・総合医療センター人工関節センター長 徳永 裕彦



令和3年4月1日付で理事長特任教授・総合医療センター人工関節センター長を拝命いたしました。山下理事長、斎藤教授および関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。第49回の卒業生であり、多くの教授が在籍している学年で趣味はゴルフ、オーディオ、カメラ、

鉄道模型です。関西医大総合医療センターが附属病院時代より30年以上に渡り滝井の地にて診療してまいりました。

初代森益太教授の時代に入局し、大学院卒業後は第2代小川亮恵教授のもと股関節疾患を専門に長きにわたって附属病院にて研鑽させていただきました。第3代飯田寛和教授は股関節専門でしたが私の方針で多くの手術をさせていただきました。長年に渡って多くの患者の術後経過を観察できたことはなにごとも代えがたい財産となり、今後はこの財産を後輩に受け継いでいただくことが私の使命と考えております。

本邦の平均寿命は伸び続けており、人工関節の耐用年数も伸びることが要求されますが、正確な手術によってこの要求に応じられると確信しております。痛みをとる

ための人工関節手術は広く行われるようになりましたが、より高度な技術が要求される両側手術、高度変形や再置換術等また総合的治療を要する合併症を有する患者さんに対しても包括的に治療が行える施設としてこの人工関節センターがありますので、その長として恥じることの無いようより一層努力を続けていく所存です。

関係各位におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻の程なにとぞよろしくお願いいたします。

略歴

- 1981年 9月 関西医科大学卒業
- 1982年 5月 関西医科大学整形外科学教室入局
- 1985年 4月 関西医科大学大学院医学研究科博士課程入学
- 1989年 4月 関西医科大学整形外科助手
- 2001年10月 同整形外科講師
- 2001年12月 関西医科大学附属香里病院、整形外科副部長
- 2004年 4月 香芝旭ヶ丘病院出向 同病院副院長
- 2005年 4月 関西医科大学附属病院整形外科勤務
- 2006年 1月 関西医科大学附属滝井病院整形外科勤務
- 2007年 4月 同病院輸血部部長併任
- 2009年 8月 同病院准教授
- 2016年 4月 同病院人工関節センター長
- 2017年 4月 関西医科大学整形外科学講座准教授 総合医療センター整形外科部長
- 2017年 5月 関西医科大学総合医療センター整形外科病院教授
- 2021年 4月 関西医科大学理事長特任教授・同総合医療センター人工関節センター長

産科学・婦人科学講座 産科(附属病院)担当診療教授に就任して

産科学・婦人科学講座 産科(附属病院)担当診療教授 森川 守



令和3年4月1日付で産科学・婦人科学講座 産科(附属病院)担当診療教授を拝命しました。

本学において産科・周産期部門での診療、教育および研究を担当させていただく機会をいただき厚く御礼を申し上げます。私は平成6年に国立旭川医科大学医学部を卒業し、ただちに北海道大学医学部産婦人科学教室に入局させていただきます、北海道内の医局関連病院で研修をしてきました。その間、平成7年に北海道大学大学院に進みました。平成12年からは大学院に戻り、平成14年に不育症を研究テーマとし医学博士号を取得しました。平成19年にパリ近郊の大学附属病院で胎児治療の技術取得のため短期留学した以外は、北海道大学病院産科・周産母子センターで臨床を中心に、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、血液ならびに自己免疫疾患合併妊娠、分娩後の出血・血栓塞栓症、胎児診断・胎児治療を専門分野として臨床研究も行ってきました。院内では産科外来医長、

病棟医長を、日本産科婦人科学会では産婦人科診療ガイドライン産科編の作成委員を経験させていただきました。現在は、臨床に根付いた疫学研究をもとに、わが国の産科診療の標準化ならびにさらなる発展を目指し、専門分野での新たなエビデンスの発信に努めています。今後は、産科学・婦人科学講座岡田英孝主任教授のもと、関西医科大学の発展に貢献できるよう尽力いたします。ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 1994年 3月 旭川医科大学医学部 卒業
- 1994年 4月 北海道大学医学部附属病院産婦人科 医員
- 1995年 4月 北海道大学大学院医学研究科博士課程入学
- その間、北海道内の関連病院で医員として勤務
- 1998年10月 町立(現、公立)芽室病院産婦人科 主任医長
- 2000年 7月 北海道大学医学部附属病院産婦人科 大学院生
- 2002年 3月 北海道大学大学院卒業 医学博士号取得
- 2002年 4月 北海道大学附属病院産科 医員
- 2007年 1月 CHI ポワシー サンジェルマン・アン・レイ(フランス)産科 留学
- 2007年 4月 北海道大学病院産科 助教
- 2013年 4月 北海道大学大学院医学研究院産科 講師
- 2016年 9月 北海道大学大学院医学研究院産科 准教授
- 2021年 4月 関西医科大学産科学・婦人科学講座産科(附属病院)担当診療教授

附属病院病院長退任の御挨拶

関西医科大学附属病院前病院長 澤田 敏



この度、令和3年3月31日をもって、4期8年の関西医科大学附属病院長職を任期満了にて退任いたしました。8年間の任期を勤め上げることができたのは、その間、多くの教職員の方々を始め関係者の皆様方に多大な御協力と御努力を頂いた結果と心から感謝いたしております。

附属病院長職としての8年間の任期中は教職員の生活維持を始め、特定機能病院としての高度先進医療の推進、教学関係を含む法人経営への財政的貢献など、数多くのミッションに対する責務を負い、毎日医療現場の指揮官としての采配を振るいながら、療養環境の改善に努めてまいりました。4月からはこれらの責務から解放されると言うささやかなる喜びをひしひしと感じております。

私が病院長職を拝命した当時の法人における財務状況

は借入金金が250億円、手許現金が僅か40億円という厳しい環境の中にあり、何とかこれを脱しなければならぬと財政基盤の改善に注力して悪戦苦闘したことを覚えております。お陰様で今日では財政面においては隔世の感があり、病院長職のバトンを次世代に渡すにあたり、余裕をもって将来計画を立てる環境を提供できたことはありがたいことだと思っております。

多くの機会に関西医科大学附属病院の好調な秘訣は何かなどと問われることがありますが、私の答えはいつもただ一つ、「トップは誰よりもよく働かなければならない」という一言です。なお、これに付け加えれば、病院長は「ビッグボス」と巷で考えられていますが、その内情は「ビッグボス」ではなく、「ビッグサーバント」であり、また、トップはそうでなければならぬと常々考えております。

最後になりましたがすべての教職員の御健康と、愛する附属病院のますますの発展を心から祈念しております。

退任にあたって

英語教室前教授 中川 淳



関西医科大学には平成19年4月に着任し、14年間お世話になりました。着任時の勤務は緑豊かな牧野学舎で、窓を開けると鳥が入ってくるほどの環境でした。学生は1学年だけで100名あまり、家族的な雰囲気のか、

陽光がまぶしい中庭で、学生と過ごすにはあまりに恵まれていました。駅から歩いて15分と言えば、不便という印象ですが、行き帰りを学生と話しながら歩くには、ちょうどよい距離で、楽しい時間でした。

当時の大学の英語教育では総合英語を扱うことが多く、本学の英語教材もそれまで『モモ』でしたが、本学が医科大学であることから、専門教育に役立つ医学英語に変更しました。

1学年で実施する合宿研修は、将来の夢を語り、関西医科大学の学生であることを意識する絶好の機会です。このため、現在のように実施時期を秋から入学当初に移し、内容を議論中心に変更しました。

1学年の英語の授業は牧野学舎で、2学年は滝井学舎で行っていましたが、新学舎に統合されてからは、最新設備が整った環境が一変しました。さらに、令和2年度は、covid-19への対応で、対面が中心の教育から、オンラインによる教育に代わり、最後の1年を味わいながら終えたいと思っていましたが、時代に追い抜かれまいとするだけで精一杯でした。

退任後も、本学で入試業務に携わる機会をいただくことになりました。時代に追い越されることなく、先んじるような入学試験になるように心がけたいと考えています。

微生物学講座退任にあたって

微生物学講座前教授 藤澤 順一



平成6年9月微生物学講座の教授として着任以来、26年半、関西医科大学で教鞭を執らして頂きました。それまで国内外の4つの研究所で、インターフェロンと白血病ウイルスを中心とした研究一筋の

生活を20年近く続けていましたので、当時、実習を含めて100コマ近い微生物学の授業を持つことについて、周囲の方々のご心配もいかばかりであったかと思えます。ただ、私の方は、幅広く専門外の細菌やウイルスの「勉強」をすればするほど、微生物学の奥深さ・面白さにはまっていった気がしています。

また、平成12年から4年間務めさせて頂いた大学院

教務部長のあいだ、大学を挙げて獲得に取り組み、平成15年に採択された21世紀COEプログラムの申請における、当時の日置紘士郎学長をはじめ他の多くの教授の方々や研究課の人々との経験は、深く記憶に残っております。さらに、その後5年間にわたる同プログラムの運営に深く関わらせて頂くことで、私ども微生物学講座の研究も大きな展開を迎え、現在、当講座の中心的研究テーマである、HTLV-1感染ヒト化マウスの開発に繋げることができましたことを大変感謝しております。

枚方新学舎建設当時、動物実験施設長として設計に携わった動物施設、新学舎での入学生から始まり、ずっと顔を合わせてきた研究医養成コースの学生達等々、枚方学舎での思い出と思い出はまだまだ沢山あります。今後の益々の発展を心から祈っております。

形成外科学講座教授退任にあたって

形成外科学講座前教授 楠本 健司



平成2年2月に小川豊初代教授のもとに講師として入職し、以後助教授を経て平成18年4月に教授に任用され、医師人生41年の内31年間を関西医科大学でお世話になりました。特に教授就任時から枚

方・滝井に分かれた研究、教育、臨床を教室員と共に進める多難な時期を過ごしましたが、枚方への大学移転後は、充実した教室運営を進めることができ、教室員も着実に増え、連携病院も増加しました。

臨床面では、形成外科のほとんどの守備範囲の治療を進めることができるようになりました。さらに積極的に他の診療領域との連携を進め、救命センターでは顔面外傷、切断指再接着、重症熱傷のオンコール体制での治療を進め、重症熱傷での関西医大方式と呼ばれる培養表皮

の応用が全国で進められています。また、他科の再建の依頼に呼応して、頭頸部再建、乳房再建などマイクロサージャリーを用いた先進的再建も多く進めることができました。

研究面では、再生医療と創傷治癒をテーマとして、再生医療法の制定前から教室員や大学院生とともに脂肪幹細胞や多血小板血漿などの研究を進め、臨床応用にまで到達しました。私自身大いなる関心を持って一層の発展を期待しています。またこの間、多くの留学生を預かることとなり、これも教室員にとっても良い刺激になりました。

教授退任後は、開業して自由度の高い診療にて地域医療に貢献する所存です。31年の長きにわたり、関西医科大学にて診療、研究、教育に打ち込めたことは、皆様のご支援のお陰と心より感謝いたしております。長い間、お世話になりありがとうございました。

外科理事長特命教授退任にあたって

外科理事長特命教授 吉岡 和彦



平成25年4月より8年間、外科理事長特命教授として関西医科大学総合医療センター外科で勤務させてまいりましたが、令和3年3月末を持ちまして退任させていただきます。

昭和52年に関西医科大学外科に入局後、山本政勝教授と日置紘士郎教授のお二人のご指導の元、下部消化管の臨床と研究に取り組んでまいりました。特に昭和61年からは、日置教授を介して、英国バーミンガム大学の外科研究員として、骨盤機能障害をテーマとした研究に携わることになり、これがその後の私のライフワークとなりました。排便障害の評価とその外科的治療は、当時の日本においては、学会発表のテーマとしても取

り上げられることは殆どありませんでした。

その後、直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術、人工肛門造設しか他に手段のないような重度の便失禁に対する有茎薄筋移植術、便失禁に対する仙骨神経刺激療法の本邦での多施設共同研究への参加などを継続してまいりました。近年には、本邦の学会においても排便機能障害に対する関心が高まり、便失禁と便秘症にそれぞれに対する診療ガイドラインの作成委員として参加し、平成29年の両者に対するガイドラインの発刊に貢献することができました。

特命教授退任後も、関西医科大学総合医療センターの外科で週1回の外来診療のみを継続していく予定です。今まで多くの方々に支えて頂き、心より感謝しております。長い間、ありがとうございました。

枚方市総合文化芸術センターの2つのホールの愛称が「関西医大 大ホール」、「関西医大 小ホール」に決定 —ネーミングライツ契約締結式挙行—

令和3年3月3日(水)15時から、枚方市役所において本学山下敏夫理事長と伏見隆枚方市長のほか関係者が出席し、枚方市総合文化芸術センターのネーミングライツ契約締結式が執り行われました。

本年9月に本学の隣接地にオープンされる同市総合文化芸術センターの大ホールと小ホールは、令和8年3月31日までの間、それぞれ「関西医大 大ホール」、「関西医大 小ホール」の愛称で、市民の方々に親しまれる施設となります。

このネーミングライツは、枚方市にとっては本学の協力により施設の安定的な維持管理や魅力の向上を図ることを目的とし、本学にとっては本学および本学附属病院の広報活動や社会貢献活動に資することを目的とします。

当日の締結式においては、山下理事長、伏見市長から、このネーミングライツを通じて、本学施設と同センターが配置された枚方市駅北側の地域一帯が、従来からの医療、福祉、教育、学術に加えて、今後、文化、芸術にお

いても、枚方市民の理解を得て親しまれるまち(エリア)になることを期待する旨のコメントがありました。

なお、締結された契約は令和3年4月1日から令和8年3月31日までのものであり、契約が続けられれば、その先何年間にもわたって「関西医大 大ホール」、「関西医大 小ホール」の愛称で呼ばれることとなります。多くの本学職員にも利用されることが望まれます。



締結式の様子

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

～「その領域で、世界でonly one かつ number one」構想の実現に向けて～

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わりまして心より御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。

昨年に引き続き、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2021において、国内では国公立の総合大学を含めて14位、関西地区では京都大学・大阪大学に次ぐ3位となりました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

施設設備の整備につきましては、この4月にリハビリテーション学部が開部し、医療系複合大学として新たな発展の道を歩み始めました。12月には国際交流センターと留学生および患者家族用宿舎の機能を備えたタワー棟の竣工、令和4年には附属病院の別館建設を開始、その後本館のリニューアルを目指しております。3つの学部との相乗効果により、今まで以上に教育・研究の発展と公共の健康・福祉に寄与してまいります。

また、研究面における特筆すべき整備計画として、来年の4月にNIH/NCI(アメリカ国立衛生研究所・国立がん研究所)の主任研究員小林久隆先生を招聘し「関西医科大学附属光免疫医学研究所」の開所を予定しており、本学の長年の構想であった「その領域で、世界でonly one かつ number one」の実現も目前に近づいてまいりました。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の脅威にさらされ、経済、教育、生活様式、さらには価値観まで影響を及ぼしましたが、Adversity makes a man wise(逆境は人を賢明にする)と言われるように、本学の更なる発展に向けて立ち止まらずに前進してまいります。

日本をリードする医科大学を目指し、教育・研究・診療の万全な整備に向けて本年度も別添のとおりご寄付の募集をさせていただきますことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他

2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出いただき、本学指定の銀行口座にお振込み、又は、ご持参ください。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A) 所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。

※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B) 税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

■住民税

大阪府にお住まいの方は府民税減税対象となります。

(大阪府と住所地の市町村に住所・氏名・寄付金額・寄付金受領日を提供いたします。)

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

なお、この募金の応募は任意です。



光免疫医学研究所設置調印式

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344

メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP: <http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

遺贈・相続財産によるご寄付も承ります

【遺贈によるご寄付】

●遺贈によるご寄付とは……遺言によって資産の全部、または一部を本学に寄付する制度です。

・信託銀行が遺言執行までサポートします。ただし、信託銀行へ手数料が発生いたします。

・本学から三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行をご紹介しますことができます。

【相続財産によるご寄付】

●相続財産によるご寄付とは……故人様の遺志によって、相続財産から本学に寄付する制度です。

・本学にいただいたご寄付は申告することにより、その分の相続税を非課税にすることができます。

・相続財産によるご寄付は、現預金のみお受けしております。

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店(06-6366-0401)

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部(06-6220-2515)

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

令和2年1月から令和2年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

なお、匿名の寄付者様より3,000万円を賜りました。枚方学舎クラブハウス移転改修費に充当させていただきます。重ねて御礼申し上げます。

令和3年度入職式

4月1日(木) 10時から医学部棟枚方学舎加多乃講堂と第1・2・3・4講義室を中継で結び、「令和3年度入職式」が挙行されました。この日は山下敏夫理事長、友田幸一学長を始め、澤田敏常務理事、神崎秀陽常務理事、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲郎病院長、香里病院岡崎和一病院長らが臨席し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて会場を分散しての開催となりました。

理事長訓辞に立った山下理事長は、90年を超える関西医科大学の歴史を紐解きながら本学の現状とこれらについて解説し、続いて新入職員を代表して登壇したりハビリテーション学部理学療法学科池添冬芽学科長に、

辞令を手渡しました。その後、池添教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。



新入職員に訓辞を述べる山下理事長




看護学部教員保健所支援

令和2年12月18日から1月中旬にかけて、本学看護学部教員が枚方市保健所の業務支援を行いました。これは、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大により、枚方市保健所の業務が増加し人員体制が逼迫した状況になったことから相談を受け、派遣が決まったもの。主に、保健師が自宅・宿泊療養者等へ電話で健康観察をする際に必要となる体温や症状の変化などをまとめた資料の作成や、電話での健康観察などを請け負いました。



お知らせ

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載はオレンジ太字)

法人	2月16日	リハビリテーション学部棟竣工式	
	3月3日	枚方市総合文化芸術センターネーミングライツ契約締結式	
	3月20日	看護専門学校発展的閉校記念式典	
	4月1日	入職式	
	4月3日	令和3年度看護学部入学式	
	4月3日	令和3年度リハビリテーション学部入学式	
	4月5日	令和3年度医学部入学式	
大学	1月14日	研究ブランディング事業シンポジウム	
	1月22日	医学生と語る会	
	2月12日	関西公立私立医科大学・医学部連合主催シンポジウム	
	2月26日	退任教授最終講義(腎泌尿器外科学講座)	
	3月3日	令和2年度医学部卒業式	
	3月4日	研究医養成コース修了証授与	
	3月4日	退任教授最終講義(形成外科学講座)	
	3月17日	退任教授最終講義(微生物学講座)	
	3月23日	大学院医学研究科学学位記授与式	
	3月23日	医学会賞贈呈式	
	3月24日	吉岡和彦特命教授退任記念講演会	
3月29日	Student Doctor認証式		
3月29日	学舎災害訓練		
3月30日	大学院看護学研究科学学位記授与式		
附属病院	3月24日	看護師特定行為研修修了式	特定行為研修修了式
附属看護専門学校	3月2日	看護専門学校卒業式	

令和2年度医学部卒業式



学位記を読み上げる友田学長

3月3日(水) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「第67回医学部卒業式」が執り行われました。今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症対策のため加多乃講堂への入室人数を制限した上で、同学舎医学部棟1階第1講義室にも同時中継されました。学位記授与では今年度卒業を迎える110名の名前が読み上げられ、友田幸一学長から卒業生の代表に学位記が直接手渡されました。卒業生たちは友田学長の式辞を傾聴し、卒業生総代感謝の言葉では、医師として社会に出る覚悟と決意、そして教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への感謝の言葉が語られました。

卒業式学長告辞

学長 友田 幸一

桃の節句の今日、第67回関西医科大学卒業式を挙行できますこと、この上ない喜びであります。

89回生の卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席いただきましたご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府の方針に従い、本式典を縮小して行わなくてはならなくなりましたこと、大変残念な思いであります。医育機関としての認識と立場を考えた上での決断とご理解をいただきたいと思っております。特に卒業を心待ちにし

ながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただくこととなり、大変申し訳なく思っております。

さて、本日、ここに男子67名、女子43名、計110名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。

この一年は、皆さんにとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思っております。卒業試験など厳しい試験地獄に耐え、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでのためまぬ努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思っております。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思います。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。また今回の新型コロナウイルスのように新たな病原体との戦いは人類の永遠の課題であり、医師は常にその最前線で患者の治療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界は大きく様変わりすることが予想されます。超高齢社会とともに在宅・介護・福祉も強化する必要があり、高齢者の尊厳の保持と、自立生活支援を目的とした「地域包括ケアシステム」が求められます。関西医大は、すでに附属の4病院に地域医療を支える体制を整えてきました。皆さんは、高度先進・専門医療だけでなく、新たに地域医療に必要な知識を学び、経験を積むことができます。

一方、第4次産業革命とも言われる「超スマート社会」、すなわちIoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展することが予測され、その時代を見据えた医療、研究が必須となってきます。本学は数年先をめざしてスマートホスピタル構想が計画されています。また大学院教育では新しく修士課程を設置し、ゲノムサイエンスや医工連携の分野にも裾野を広げ必要な人材の育成に力を入れようとしています。皆さんにとって、大学病院でこそ実現可能な臨床研究や、大学院に入り学位を取ることや留学することは自身のキャリア形成において極めて意義のあることです。志を高く持って科学に根差した医療を目指して欲しいと思います。その他女性医師のための「オール女性医師キャリアセンター」も新たにスタートしました。

本学は創立90周年を機に、さまざまな事業を展開し



参列する卒業生

てきました。今年、新たにリハビリテーション学部の開設、国際交流センターや留学生、患者家族の宿泊機能を備えたタワー棟の完成、そして来年には最新のがん治療をめざす「光免疫医学研究所」が新設されます。これから7年先の100周年を目標にさらに進化していきます。

私は学長就任以来、国際化、グローバル化を目指してきました。本学は3年連続でTHE世界大学ランキングにランクインし、今年の世界で800位内に入り、国内の全私立大学では第4位、関西の私立大学で第1位となりました。また学生・教員比率も世界第3位を維持しています。これからも「世界に開かれた大学」をめざしてまいります。大学の評価は卒業生が担うところが大きく、皆さんの活躍は本学の誇りでもありません。母校の更なる発展を願い、皆さんの若いエネルギーと新しい発想をもって共に頑張りたいと思います。

そして、卒業しても関西医科大学同窓生として常に母校愛を忘れないでください。

最後に、比叡山延暦寺天台宗最澄(さいちょう)の言葉を贈ります。「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」。皆が気付かない片隅で社会を照らす人こそ国の宝であるという意味で、たとえ注目されなくても、自分の置かれた場所でベストを尽くすことが大切であると説いています。

本学の建学の精神「慈仁心鏡」にも通ずるところがあり、この精神を忘れず、それぞれのプロフェッショナルの道を究め、一人ひとりが一隅を照らす存在になってください。本日は誠におめでとうございませ

大学関係役員

4月1日から、大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田幸一	リハビリテーション学部教務部長	附属図書館長	赤根 敦
副学長・医学部教務部長	野村昌作		附属生命医学研究所長	木梨達雄
副学長	木梨達雄	医学部教務副部長	総合研究施設長	清水(小林)拓也
副学長	金子一成	〃	実験動物飼育共同施設長	平野伸二
看護学部長	片田範子	学生部長	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
リハビリテーション学部長	飯田寛和	学生副部長	入試センター長	中川 淳
リハビリテーション学部 理学療法学科長	〃	〃	医学教育センター長	西屋克己
	池添冬芽	学生部副部長(看護学部)	国際交流センター長	鈴木有子
リハビリテーション学部 作業療法学科長	吉村匡史	大学院医学研究科教務部長	学 医	長沼 誠
	加藤令子	大学院医学研究科教務副部長		
看護学部教務部長		大学院看護学研究科教務部長		
		林 優子		

令和3年度医学部クラスアドバイザー、看護学部、リハビリテーション学部クラス担任

令和3年度のクラスアドバイザーおよびクラス担任が次のとおり決定しました。

【医学部】

第1学年	六車恵子 教授 (iPS・幹細胞応用医学)
第2学年	清水(小林)拓也 教授 (医化学)
第3学年	薬師寺祐介 教授 (神経内科学)
第4学年	北田容章 教授 (解剖学)
第5学年	谷崎英昭 教授 (皮膚科学)
第6学年	岡田英孝 教授 (産科学・婦人科学)

【看護学部】

1年次	大川聡子 准教授 (地域看護学領域)
2年次	青木早苗 准教授 (慢性疾患看護学領域)
3年次	太田祐子 准教授 (看護学教育領域)
4年次	三木明子 教授 (精神看護学領域)

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	中野治郎 教授
作業療法学科	三木恵美 准教授

新たに「難治性免疫・アレルギー治療学 社会連携講座」を設置

1月1日(金)付で、表記社会連携講座が新たに開講されました。代表者は臨床病理学講座神田晃准教授(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座兼務)で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座(教授・岩井大)に設置されています。

難病に指定されている「好酸球性副鼻腔炎(指定難病306)」は重度の喘息を合併し、繰り返し再発します。その治療法として、手術による病巣の切り取りとステロイド剤の全身投与が行われていますが、長期間の投与による副作用やステロイド抵抗性の症例も報告されており、臨床現場で大きな問題となっています。そこで本講座は、好酸球性副鼻腔炎に対する新規治療法の開発を目指します。

研究代表者らは、すでに好酸球性副鼻腔炎疑似モデル(好酸球性上気道炎症マウスモデル)を確立。このマウスを用いてさらに研究を進めることで、好酸球性炎症のメカニズム解明や、効果的な治療法の開発など、多くの成果が期待されています。※講座名・役職は当時のもの

令和3年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(月)	入学式
4/6(火)～4/9(金)	新入生健康診断・ガイダンス
4/12(月)・13(火)	合宿研修(代替)
4/14(水)	1学期開講
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
6/30(水)	創立記念日
7/30(金)	1学期終講
8/2(月)～8/20(金)	夏季休業(期間内に臨床実習P1a(早期体験実習))
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
11/29(月)～12/3(金)	臨床実習P1b(早期医療実習)
12/14(火)	2学期終講
12/15(水)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
2/24(木)	総合試験
2/24(木)	3学期終講
3/2(水)	卒業式

2学年	
4/6(火)	1学期開講
4/22(木)	学生定期健康診断
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
5/15(土)	解剖体追悼法要
6/30(水)	創立記念日
7/21(水)	1学期終講
7/22(木)～8/20(金)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
12/16(木)	2学期終講
12/17(金)～1/4(火)	冬季休業
1/5(水)	3学期開講
1/5(水)～1/7(金)	臨床実習P2(看護実習)
2/25(金)	総合試験
2/25(金)	3学期終講
3/2(水)	卒業式

3学年	
4/6(火)	1学期開講
4/23(金)	学生定期健康診断
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
5/14(金)・17(月)・24(月)	臨床実習P3(医療面接入門)
5/15(土)	解剖体追悼法要
6/30(水)	創立記念日
7/30(金)	1学期終講
8/2(月)～8/20(金)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
12/17(金)	2学期終講
12/20(月)～1/4(火)	冬季休業
1/5(水)	3学期開講
1/24(月)～2/18(金)	リサーチP3(配属実習)
2/28(月)	総合試験
2/28(月)	3学期終講
3/2(水)	卒業式

4学年	
4/6(火)	1学期開講
4/21(水)	学生定期健康診断
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
6/30(水)	創立記念日
7/21(水)	1学期終講
7/22(木)～8/20(金)	夏季休業(期間内に人間P4(社会医学実習))
8/23(月)	2学期開講
10/21(木)～10/22(金)	共用試験C B T
10/25(月)～11/19(金)	臨床実習P4a(総合臨床医学実習)
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
12/4(土)	P r e-CC OSCE
12/6(月)～12/8(水)	臨床実習P4b(医療情報学)
12/9(木)～12/17(金)	臨床実習P4c(プレクリニカル・クラークシップ)
12/17(金)	2学期終講
12/20(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
1/11(火)～3/25(金)	臨床実習
3/2(水)	卒業式
3/25(金)	3学期終講

5学年	
4/5(月)	1学期開講
4/5(月)～2/4(金)	臨床実習
4/22(木)	学生定期健康診断
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
6/30(水)	創立記念日
7/16(金)	1学期終講
7/20(火)～8/20(金)	夏季休業(期間内に社会医学実習)
8/23(月)	2学期開講
9/4(土)	中間試験
9/10(金)	CC中間検討会
12/24(金)	2学期終講
12/27(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
2/10(木)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/2(水)	卒業式
3/11(金)	3学期終講

6学年	
4/5(月)	1学期開講
4/5(月)～8/6(金)	臨床実習
4/21(水)	学生定期健康診断
5/3(月)～5/5(水)	休講(5月連休)
6/30(水)	創立記念日
8/6(金)	1学期終講
8/9(月)～8/23(月)	夏季休業
8/24(火)	2学期開講
8/24(火)	卒業試験①
8/30(月)～10/8(金)	まよめの講義(予備・自習含む)
10/1(金)～10/2(土)	Post-CC OSCE
10/18(月)～10/22(金)	卒業試験②(5日間の内2日(予備含む))
10/25(月)～11/4(木)	まよめの講義(予備・自習含む)
11/16(火)～11/19(金)	卒業試験③(5日間の内2日(予備含む))
11/19(金)	2学期終講
11/22(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
12/23(木)	第2回卒業判定用試験
3/2(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

令和3年度 看護学部教務関係日程表

1～4年次	
4/2(金)	健康診断(2・3年)
4/3(土)	入学式
4/2(金)～4/6(火)	在学生オリエンテーション
4/5(月)～4/8(木)	新入生オリエンテーション
4/6(火)	健康診断(1・4年)
4/7(水)	2・3年生1学期開講
4/12(月)	4年生1学期開講
4/14(水)	1年生1学期開講
6/30(水)	創立記念日
7/5(月)～7/16(金)	学期末試験期間
7/16(金)	1学期終講
8/2(月)～8/22(日)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
11/15(月)～11/19(金)	学期末試験期間
11/19(金)	2学期終講
12/6(月)	3学期開講
12/27(月)～1/4(火)	冬季休業
2/28(月)～3/4(金)	学期末試験期間
3/4(金)	3学期終講

令和3年度 リハビリテーション学部教務関係日程表

1年次	
4/3(土)	入学式
4/5(月)～7(水)	新入生オリエンテーション
4/7(水)	前期開講
4/9(金)	健康診断
6/30(水)	創立記念日
8/2(月)～8/11(水)	期末試験期間
8/11(水)	前期終講
8/15(日)～9/30(木)	夏季休業
10/1(金)	後期開講
10/29(金)～10/31(日)	大学祭
12/27(月)～1/5(水)	冬季休業
1/27(木)～2/9(水)	期末試験期間
2/9(水)	後期終講
2/15(火)～3/31(木)	春季休業

研究医養成コース修了証書授与

3月3日(水) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において挙行された「第67回医学部卒業式」において、研究医養成コース修了証書授与が行われました。今年度は卒業式内で授与が行われ、研究医養成コースの所定の課程を修了した医学部6年生の学生に友田幸一学長から修了証書が授与されました。



修了証を手にする修了生

令和3年度Student Doctor 認証式

3月29日(月) 14時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂において令和3年度Student Doctor 認証式が挙行されました。Student Doctorとは、Pre-CC OSCE及びCBTに合格して5学年に進級した医学部学生に対し、臨床実習中の医学生としての医行為を認める制度です。

認証式では認証を受ける学生一人一人の名前が読み上げられた後、代表学生へ友田幸一学長から認定証が授与されました。その後、友田学長の挨拶、野村昌作医学部教務部長の挨拶に続き、臨床実習先を代表して、附属病院澤田敏病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長から訓示が述べられました。

最後に学生代表から、Student Doctorとしての誓い

の言葉が述べられ、学生たちは臨床現場で始まる実習に向けて気を引き締めている様子でした。



認定証を授与する友田学長(右)と受け取る代表学生(左)

第20回 関西医科大学医学会賞

令和2年11月7日(土)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第20回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。第20回関西医科大学医学会賞に選ばれた4名をご紹介します。なおこの4名には3月23日(火)15時30分から枚方学舎4階中会議室で行われた医学会賞贈呈式にて、賞が授与されました。

1位 産科学・婦人科学講座 村田 絃未 講師

■演 題 「子宮内膜の血管構築の安定化と免疫寛容に携わる脱落膜化子宮内膜間質細胞の転写制御機構の解明」

この度、第20回関西医科大学医学会賞を賜り、誠にありがとうございます。私は平成27年に関西医科大学大学院博士課程に入学し、子宮内膜脱落膜化因子遺伝子の転写制御機構を解明しようと試みました。排卵後の卵巣が分泌するプロゲステロンは、子宮内膜の脱落膜化を促し、胚の着床および妊娠の維持をもたらします。一方で脱落膜化の障害は着床不全や流産の原因の一つとなることが知られています。本研究では、プロゲステロンが誘導する子宮内膜転写因子群の新規の転写制御機構を明らかにし、子宮内膜における血管構築と免疫寛容へのさらなる理解を促すことができたと考えております。本研究にあたり、多大なるご指導を賜りました産科学・婦人科学講座教授岡田英孝先生ならびに教室員の先生方、解剖学講座教授北田容章先生・准教授田中進先生に、この場を借りて心から御礼申し上げます。



2位 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 尹 泰貴 助教

■演 題 「好酸球性副鼻腔炎における活性化好酸球のCD69発現と臨床所見との相関」

この度は、名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。鼻副鼻腔疾患の治療を自らの専門としていく中で、難病指定されている好酸球性副鼻腔炎に興味をもち、その発症機序解明に寄与できないかと考え研究をおこなってまいりました。今研究では、血球活性化マーカーであるCD69に着目し、その発現量が疾患重症度と相関すること、更にはそれ自身の機能により好酸球から組織障害性タンパクを放出させることを明らかにすることができました。今後、CD69発現を制御するという新たな治療法の確立が期待されると考えております。この場をお借りして、大学院に進学し研究することを勧め頂いた友田前教授(現:学長)、岩井教授、直接ご指導いただき研究の楽しさを教えてくださった神田准教授、総合研究施設職員の皆様、そして耳鼻咽喉科教室の先生方に厚く御礼申し上げます。



3位 麻酔科学講座 楠 宗矩 先生

■演 題 「プロポフォールは膵β細胞におけるストロマトキシン-1感受性の電位依存性カリウムチャンネルを阻害し、インスリン分泌を促進する」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。大学院進学後より、静脈麻酔薬がインスリン分泌に与える影響について研究しております。本研究では臨床現場で頻繁に使用されるプロポフォールが、臨床使用濃度ではインスリン分泌を促進し、一方高濃度では抑制するという二相性の作用を示すことを明らかにしました。臨床に影響を与える可能性のある興味深い知見を得ることができました。この場をお借りして多大なるご指導を賜りました、関西医科大学 附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門 廣田喜一教授、松尾禎之先生、細胞機能部門 林美樹夫先生、また麻酔科学講座をはじめ多くの先生方に心より感謝を申し上げます。



3位 小児科学講座 高畑 枝理子 研究医員

■演 題 「軽症孤立性先天性水腎症の2年間の自然経過に関する日本での単一施設による前方視的検討」

この度、関西医科大学医学会賞を授与していただき大変感謝しております。私は平成25年に本学社会人大学院に進学させていただきました。近年、超音波機器によるスクリーニングで胎児・新生児期に軽症先天性水腎症が発見される機会が増えましたが、フォローや治療介入について標準化されていません。本研究では1019例を対象に継続的に超音波検査で評価し自然経過を明らかにしました。その結果、SFU1度は症状を認めなければ以降のフォローは必要なく、SFU2度は1年毎に腹部超音波検査で再検査方針を決定すればいいと考えられます。今回、このような研究をさせて頂き、受賞をいただきましたことは、熱いご指導を頂いた金子一成教授、小児科学講座の先生方のおかげです。あらためて心より深く御礼を申し上げます。



岡本副技師長が文部科学大臣表彰を受賞

令和2年度医学教育等関係業務功労者に附属病院病理部岡本久副技師長が選ばれ、文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では、医学・歯学の教育や研究等の補助的業務において特に顕著な功績のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回岡本副技師長は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



表彰状を持つ岡本副技師長

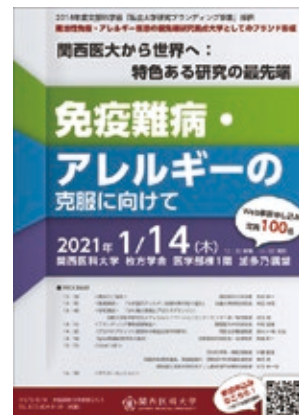
研究ブランディング事業シンポジウムを開催

1月14日(木) 13時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂及びオープンラウンジにおいて「研究ブランディング事業シンポジウム」が開催されました。これは、平成30年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業として採択された、本学の『難治性免疫・アレルギー疾患の最先端研究拠点大学としてのブランド形成』で得られた成果や知見を社会に還元するために開催されたものです。また、新型コロナウイルス感染症の流行拡大を受けて会場の収容人数制限や来場者の検温、手指消毒の徹底など、感染対策に万全を期しながら行われました。

シンポジウムでは、友田幸一学長が開会挨拶を述べた後、近畿大学病院東田有智病院長が基調講演として「わが国のアレルギー疾患対策の取り組み」を、京都大学医学研究科成宮周特任教授が学術講演として「がん微小環境とプロスタグランジン」を、それぞれ講演。その後も成果報告として附属生命医学研究所分子遺伝学部門木梨達雄教授(研究担当副学長)が統括報告を行った他、医化学講座清水(小林)拓也教授が「プロスタグランジン受容体の構造生物学的解析」を、香里病院岡崎和一病院長(名誉教授)が「IgG4関連疾患研究の進歩」を、内科学第一講座伊藤量基准教授が「ヒト樹状細胞をターゲットにした、アレルギーおよび自己免疫疾患に対する新たな治療戦略」を、臨床病理学講座神田晃准教授(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座兼務)が「難治性好酸球性炎症におけ

る好酸球のサブタイプとその役割」を、附属生命医学研究所ゲノム解析部門日笠幸一郎学長特命教授が「オミックス解析基盤の構築とIgG4関連疾患のゲノムワイド関連解析」を講演。参加した学内外の研究者が熱心に聴講しました。

各講演終了後は会場を医学部棟1階オープンラウンジに移し、研究ブランディング事業に参画した各部門がそれぞれの研究成果をポスター形式で発表するポスターセッションを開催。セッション会場では事業によって進展した研究の成果について、発表者と参加者が意見を交換したり質疑応答を行ったりと、活発な議論が交わされました。



集合写真に収まる友田学長(前列中央)ら、講演登壇者



講演を行う近畿大学病院東田病院長(左)と京都大学成宮特任教授(右)



ポスターセッションの様子

研究ブランディング事業は令和3年度で終了しますが、本学は引き続き免疫疾患や難治性アレルギー疾患、各種難病の病態解明や治療法の開発に向けて強力に研究を推し進め、病に苦しむ患者さんの光となるだけでなく、世界の健康長寿を支える大学としてブランドを確立できるよう取り組んでいきます。

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

トリプルネガティブ乳がんの 予後判定に有用なマーカーを発明

病理学講座 石田 光明 講師

—先生の研究について教えてください。

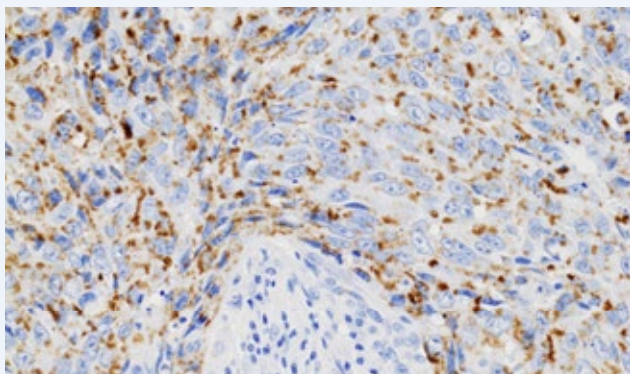
病理診断の業務はあらゆる臓器が対象になります。本学でも隣臓外科や乳腺外科をはじめとする様々な診療科と協力して様々な研究に取り組んでいます。このたび、乳腺外科の大学院生と共同で、トリプルネガティブ乳がんの予後判定に用いるマーカーを発明しました。

—どのような発明ですか？

乳腺に発生する乳がんは、その性質により4つの「サブタイプ」に分類されます。サブタイプごとに治療法が異なり、予後も異なります。たとえばホルモンレセプター陽性であれば、ホルモン療法が主な治療法になります。HER2陽性の場合は、抗HER2薬の投与が主な治療法になります。

乳がんの1~2割を占めるトリプルネガティブ乳がんは最も予後が悪く、現在はほぼ全例に対し、手術に加えて化学療法がおこなわれています。トリプルネガティブ乳がんでは、従来からがんの増殖能を表すKi-67などが代替指標として用いられてきましたが、直接的に予後を予測できるものではありませんでした。

がんは、似たような見た目でも予後の善し悪しが大きく異なることがあります。この善し悪しを何らかの形で可視化できないかと考えたことがそもそものきっかけで、アディポフィリンという、細胞質内脂肪滴膜上に発現するたんぱく質に着目しました。アディポフィリンは、脂質の輸送および脂肪滴の形成を担うPATファミリーのメンバーで、様々な細胞の脂肪滴の表面に局在しています。



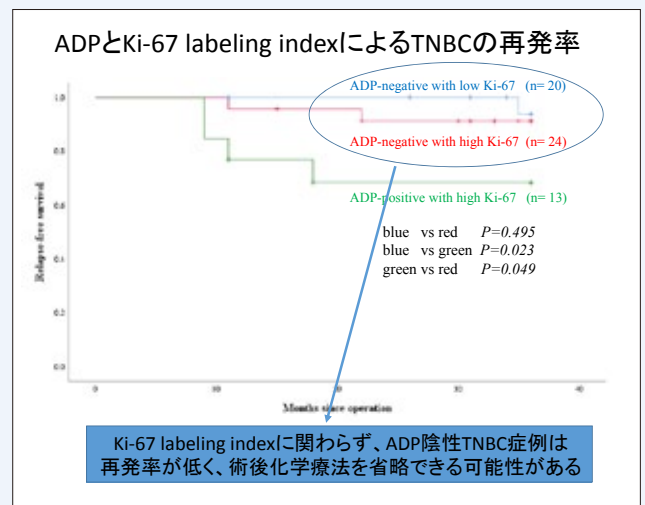
トリプルネガティブ乳がんにおけるアディポフィリンの発現



平成18年1月から平成30年12月までに関西医科大学附属病院において、トリプルネガティブ乳がんの切除手術を受け継続して受診している術前化学療法を施行していない61名の患者さんについて検討を行いました。

免疫組織化学的に測定したところ、アディポフィリン陽性患者の再発率は、陰性患者と比較して有意に高いこと、また多変量解析での独立した予後不良因子であることを明らかにしました。アディポフィリン陽性症例は無再発生存期間が有意に短いことがわかりました。また、予後不良因子と考えられているKi-67が高値の症例においても、アディポフィリンが陰性であれば予後は良好であることがわかりました。

さらに、アディポフィリン陰性のトリプルネガティブ乳がん症例は、術後化学療法を行わなくても、再発率が低い傾向にあることがわかりました。

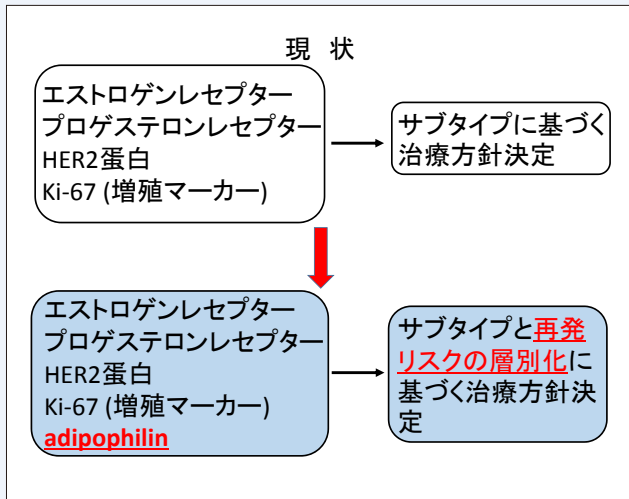


アディポフィリン(ADP)とKi-67 labeling indexによるTNBCの再発率

乳がん切除後の予後が予測できれば、術後の化学療法の要否など、患者さんのQOLや予後に関わる判断が可能になります。がんの再発リスクを調べる場合、

遺伝子パネル検査では1件あたり数十万程度の高額な費用が掛かりますが、アディポフィリンをマーカーとして予後判定を行う検査は費用も数千円と安価で、1日から2日と短期間で実施できます。

この研究では、本年度AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）の研究費を獲得。さらにこのトリプルネガティブ乳がんの予後判定に用いるマーカーに関しては、特許も取得しています。この技術は、いずれはトリプルネガティブ乳がん以外のタイプの乳がんの検査にも応用することができるのではないかと考えています。また、アディポフィリンは膵がんの予後判定マーカーであることも見出しており、特許を取得し、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の研究費を取得しました。



アディポフィリンをマーカーとして用いた場合の治療方針決定の流れ

—後輩へのメッセージを

臨床や研究において、不思議だと思ったこと、疑問に思ったことがあった際、そのままにしないことが大切です。疑問や違和感を見つけたら、突き詰めていけば何かに結び付きます。そのうちのいくつかは、研究成果としてヒットするかもしれません。

■ 研究費などの採択歴

令和3年度 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 橋渡し研究シーズ戦略的推進プログラム・シーズA 研究代表者

“乳癌再発リスク層別化に向けた新規予後予想キットの開発” (3,360,000円)

令和3・4・5年度 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究分担者

“膵癌細胞における adipophilin の発現とグルタミン代謝メカニズムの解明” (1,360,000円)

令和3年度 大阪コミュニティー財団 医学医療研究助成 研究分担者

“トリプルネガティブ乳癌の癌関連線維芽細胞における PD-L1 の発現の臨床病理学的意義の解明” (1,000,000円)

令和2年度 大阪コミュニティー財団 研究助成金 研究代表者

“新規乳癌予後マーカー adipophilin の発現機序に基づく新規治療ターゲットの探索” (500,000円)

令和2年度 関西医科大学学内研究助成 D1 研究代表者

“乳癌新規予後マーカー adipophilin による再発リスク層別化と新規治療ターゲットの開発” (300,000円)

令和1年度 関西医科大学学内研究助成 D2 研究分担者

“トリプルネガティブ乳癌における Adipophilin とグルタミン代謝関連蛋白質発現の解析と新規治療ターゲットの創出” (300,000円)

令和1年度 関西医科大学学内研究助成 D2 研究分担者

“トリプルネガティブ乳癌における PD-L1 の発現と免疫環境の臨床病理学的意義” (300,000円)

■ 略 歴

- 2003年 3月 滋賀医科大学卒業
- 2003年 5月 滋賀医科大学附属病院検査部 研修医
- 2005年 5月 滋賀医科大学附属病院検査部 医員
- 2007年 5月 滋賀医科大学附属病院検査部 助教
- 2012年 12月 滋賀医科大学附属病院病理部 講師
- 2016年 4月 関西医科大学附属病院病理診断科 講師

■ 所属学会・研究会(役職・資格等)

- 日本病理学会 専門医・研修指導医 学術評議員
- 日本臨床細胞学会 専門医・教育研修指導医
- 日本臨床検査医学会 臨床検査管理医

令和3年度入学試験結果

令和3年度入学試験結果は以下の通りです。

医学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験(専願制)	40	10	10
地域枠学校推薦型選抜試験(専願制)	100	15	15
一般枠学校推薦型選抜試験	209	17	11
特色選抜試験	49	14	7
一般選抜試験(前期)	1,764	110	59
一般選抜試験(後期)	589	8	7
大学入学共通テスト利用選抜試験(前期)	561	48	5
大学入学共通テスト利用選抜試験(後期)	59	2	3
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	469	67	10

看護学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
学校推薦型選抜試験(専願制)	161	25	25
〈併願制〉	88	11	3
一般選抜試験(2教科型)	300	52	13
〈3教科型〉	381	109	51
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	127	30	4
〈3教科型〉	150	34	4

リハビリテーション学部(理学療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
推薦性能力試験型〈専願制〉	14	14	14
〈併願制〉	7	7	6
推薦調査書重視型〈専願制〉	6	6	6
〈併願制〉	1	1	1
一般選抜試験(2教科型)	8	7	4
〈3教科型〉	27	20	15
大学入学共通テスト利用選抜試験 前期(2教科型)	24	24	9
〈3教科型〉	11	11	2
大学入学共通テスト利用選抜試験 後期(2教科型)	3	3	2

リハビリテーション学部(作業療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
推薦性能力試験型〈専願制〉	5	5	5
〈併願制〉	2	2	2
推薦調査書重視型〈専願制〉	4	4	4
〈併願制〉	1	1	0
一般選抜試験(2教科型)	3	3	1
〈3教科型〉	8	7	3
大学入学共通テスト利用選抜試験 前期(2教科型)	10	10	1
〈3教科型〉	5	5	1
大学入学共通テスト利用選抜試験 後期(2教科型)	2	2	1

大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
前期試験	4	4	3
後期試験	3	3	3

大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
前期試験	9	9	9
後期試験	20	20	20

大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程	博士 前期課程	博士 後期課程
夏期日程	8	3	6	2	6	2
冬期日程	4	6	3	3	3	3

第115回医師国家試験結果

3月16日(火)第115回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者110名のうち102名が合格し、合格率は92.7%、新卒および既卒を合わせた本学の受験者116名のうち103名が合格し、合格率は88.8%でした。

今後も学生全員の合格に向け、サポート体制を強化する予定です。

令和3年3月度大学院医学研究科学位記授与式挙行政

3月23日(火)15時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、人見浩史大学院医学研究科教務部長や指導教員らが列席し、「令和3年3月度学位記授与式」が挙行政され、課程博士21名、論文博士1名に、友田学長から博士(医学)学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労い、「これまでの努力を今後の医師人生に生かしていただき、さらなる活躍を期待します」との、激励の言葉が贈られました。



学位記を手に持つ修了生

令和2年度大学院看護学研究科学位記授与式挙行政

3月30日(火)13時から枚方学舎看護学部棟2階第一講義室において、友田幸一学長、片田範子大学院看護学研究科長、関西医科大学附属看護学校同窓会安田照美会長らが列席し、「令和2年度大学院看護学研究科学位記授与式」が挙行政され、博士前期課程の修了生6名、博士後期課程の修了生1名に、友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労われ、片田研究科長の祝辞では、コロナ禍の中学んできた修了生の努力をたたえ励ます言葉が贈られました。

腎泌尿器外科学講座松田公志教授最終講義

2月26日(金) 15時45分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂及び第1講義室において、腎泌尿器外科学講座松田公志教授の最終講義が開講され、友田幸一学長をはじめ4学年学生、教職員など約200名が参加しました。

松田教授は『泌尿器内視鏡手術とともに30年：手術を解き明かすことを目指して』と題して講演。内視鏡外科手術の歴史の振り返りや、腹腔鏡手術の開発や進歩を解説した他、手術操作の技術分析について熟練者とそうでない者との動きを操作場面ごとに工学的・力学的に比較し、手術手技の解明に取り組んだ研究結果や、内視鏡手術の今後の展望などについて紹介しました。また最後に参加者に向けて「大学の発展とともに30年過ごすことができた、関わってくれた教職員や学生の皆さんに感謝したい」と述べました。

講義後、山下敏夫理事長と友田学長が挨拶に立ち、それぞれ松田教授のこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真に収まる松田教授(最前列中央)と参加者

形成外科学講座楠本健司教授最終講義

3月4日(木) 15時45分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂及び第1講義室において、形成外科学講座楠本健司教授の最終講義が開講され、友田幸一学長はじめ学生、教職員など約200名が参加しました。

楠本教授は『形成外科が目指すもの』と題して講演。形成外科を専攻したきっかけ、これまで自身が携わってきた症例、「再生医療と創傷治癒」をテーマとした形成外科学講座における主な基礎研究などを紹介しました。最後に今後の形成外科が目指すものとして、体表に関わる欠損/変形/色調異常などに対して、形成再建外科と形成美容外科が「ヒトをヒトらしく、そしてより美しく」する“ヒトをHappyにする外科”を挙げ、在任中に関わった教職員や学生に感謝の意を述べ、講義を締めくくりました。

講義後には、山下敏夫理事長と友田学長が挨拶に立ち、それぞれ楠本教授のこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真に収まる楠本教授(最前列中央)と参加者

微生物学講座藤澤順一教授最終講義

3月17日(水) 15時45分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、微生物学講座藤澤順一教授の最終講義が開講され、友田幸一学長をはじめ学生、教職員など約100名が参加しました。

藤澤教授は『ヒトT細胞白血病ウイルスと共に』と題して講演。自身の経歴を紹介する中で“研究”に憧れたきっかけ、研究を進めていく中で出会った人々とのつながりや縁がその後に与えた影響について語ったのち、これまで取り組んできたHTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)ウイルスの研究について紹介しました。また、21世紀COEプログラム、研究医養成コースなど、本学着任後27年間で教務関係の役職を努めていた際に関わったプロジェクトを振り返り、関係した教職員へ感謝の意を述べ、講義を締めくくりました。

講義後、山下敏夫理事長と友田学長が挨拶に立ち、それぞれ藤澤教授のこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真に収まる藤澤教授(最前列中央)と参加者

大阪府医師会主催「医学生と語る会」が開催

1月22日(金)18時から、大阪府医師会勤務医部会主催で在阪5大学の医学生を対象としたオンラインイベント「医学生と語る会2020」が開催されました。今年で13回目となる同イベントは、今回コロナ禍を踏まえて初のオンライン開催となりました。本学からは友田幸一学長、眼科学講座高橋寛二教授、内科学第二講座岩坂潤二診療講師に加え、学生3名の他、世話人として医療法人協仁会小松病院一番ヶ瀬明総院長(本学内科学第二講座OB)らが出席し、全体で延べ29名が参加しました。

会では、研究医養成コースの概要や普段の学習・研究内容、COVID-19を始めとする感染症への現場の対応から、女性医師のワークライフバランス、専門領域の選び方まで、参加した学生からは様々な質問が飛び、活発に議論が交わされました。

関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム開催

2月12日(金)13時からオンライン形式で、2回目となる関西公立私立医科大学・医学部連合主催シンポジウム「いのち輝く未来を拓く産学公共創シンポジウム～EXPO2025に向けて～」が開催されました。兵庫医科大学野口光一学長の挨拶で開幕した同シンポ第1部では、京都府立医科大学竹中洋学長、奈良県立医科大学細井裕司理事長・学長、大阪市立大学医学部河田則文医学研究科長兼医学部長、和歌山県立医科大学宮下和久理事長・学長、関西医科大学友田幸一学長、大阪医科薬科大学大槻勝紀学長、兵庫医科大学野口学長、近畿大学医学部松村到学部長が、それぞれ順に自学の産学連携についてプレゼンを行いました。

続いて第2部では、第1部の各講演を受けた意見交換や、コロナ禍における各大学の創意工夫について紹介するパネルディスカッションを開催。友田学長は、第1部

において産学連携の進化・加速を目指した「社会実装マインド育成プログラム」を紹介した他、第2部ではタイ国・マヒドン大学ラマティボディ病院の学生と本学学生がオンラインで交流した取り組みを紹介し、コロナ禍における国際交流について新たな形を提示しました。

最後に、友田学長が閉会の挨拶を述べ、初めてのオンライン開催となった同シンポは盛會裡のうちに幕を閉じました。

シンポジウムポスター

病院

附属病院 看護師特定行為研修修了

令和2年4月1日(水)に開講された看護師特定行為研修が修了し、34名の特定看護師が現場で活躍しています。

看護師特定行為研修とは、年々高度化が進む医療の現場においてチーム医療のキーパーソンである看護師を対象に、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るために行われるもの。研修を修了した看護師は、医師が手順書に定めた行為について医師の指示を待たずに自身の判断で患者さんへ特定行為を実施することが可能となり、タイムリーかつ効果的な看護を実現することで、質の高い医療の提供が可能となります。

附属病院では「術中麻酔管理領域パッケージ」と「重

症患者管理コース」が開講され、共通科目(5~6か月)、区分別科目(2~3か月)、臨地実習(3~6か月)を経て3月24日(水)に修了式が行われました。



臨地実習開始にむけたOSCEを受講する看護師(左)

令和2年度附属看護専門学校卒業式



笑顔で集合写真に納まる卒業生

3月2日(火) 10時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「令和2年度附属看護専門学校卒業式」が執り行われました。令和2年3月で発展的閉校を遂げるため最後となる卒業式では、山下敏夫理事長や友田幸一学長、安田照美統括看護部長らが臨席するなか、57名の卒業生に、楠本健司学校長から医療専門課程専門士の称号を授けられました。

学校長式辞

学校長 楠本 健司

本日ここに卒業の日を迎えられた令和2年度39期生57名の皆さん！卒業おめでとうございます。

皆さんもご存知のように新型コロナウイルスの感染が未だ1年以上続いているこの状況の中、理事長先生はじめ大学や関係のみなさまのご理解をいただき、皆さんや出席者が感染者、感染拡大の媒介者にならない最大の配慮をした卒業式の開催になっています。以前の卒業式とは大きく異なり、昨年と同様、ご家族・保護者の御出席もご遠慮いただいた特別な卒業式ですが、みなさんが医療人としてこれを理解するとともに、大学や関係の皆さまの暖かい支援の心をありがたく感謝したいと思います。

さて、あらためまして関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同皆さんのご卒業を心よりお祝いいたします。ご家族・保護者の皆様には、閉校が決まった本校への入学に始まり、台風や大阪北部地震などでの災害、昨年からの長引くコロナ禍の中、ご心配されながらこの3年間で皆さんの生活を支援されてきました。本日全員そ

ろって無事国家試験の受験を終え、この卒業の日を迎えられたことに、心よりお慶びを申し上げます。また卒業生を、多難なコロナ禍の現場でありがたい多くの配慮をいただきました実習施設の皆様、並びにご多用の中、平素よりご指導をいただき、このような状況の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

関西医科大学は昭和3年に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学ですが、その附属看護専門学校である本校も、昭和7年に附属看護婦養成所として開設され、今年で89周年を迎えました。これまでの本校の卒業生の総数は、みなさんを含めて5,626名で、そのうち4,738名という多くの正看護師を世に送り出してきた大変歴史ある看護専門学校です。さて、看護師としてのスタートを前に学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となる

べく、日々勉強に励み、看護に必要な知識・技術の習得、ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりのこころを育んでこられました。一方、学生生活では球技大会、学校祭など多くのイベントを皆さんが企画し、私も競技に参加し大いに楽しむことができました。また、実習では制限もあった中でも多くの患者さんたちと言葉を交わしたコミュニケーションや多くの笑顔ももらえたことと思います。これはまさに「看護の心」が伝わったものと言えます。卒業生の皆さんは、もうすぐ看護師生活がスタートしますが、学生時代とは異なり、そこには多くの困難に直面することと思います。これらに対し、皆さんは、患者さんやその置かれた状況を理解し、時には共感し、協調する姿勢は極めて大切です。そして、患者さんとも先輩や同僚、後輩ともより良い人間関係を築いてください。これらは必ずやみなさん自らを人としても成長させてくれます。

本日、卒業という節目に当たり、「看護の魂」について皆さんとその心構えを考えたいと思います。本校での学校生活の間に出会った先生方や実習での患者さん、様々な出来事のおかげで、皆さんは今後の臨床現場で、一層心の目が開かれ、患者さんへの共感の幅が広がり、自らの人格が形成されることと思います。遠からず皆さんたち一人一人が大変忙しく、患者さんに必要とされ、必ずやこれを幸せと感じる人生が待っています。「忙しく、必要とされる」、皆さんにとってこれこそ看護をもって患者さんを支え、人の役に立つことであり、これに勝る幸せはありません。皆さん！心身ともに健康で、「看護の心」を持ち、多くの経験から学びを重ね、この「看護の魂」を感じる看護師になられることを心より願っています。

最後に3つのことを伝えておきたいと思います。1つは、「卒業式を終え家に帰ると、皆さんを支えていた

いたご家族・保護者にはありがとうと伝え、後日送ります本日の卒業式のビデオDVDを一緒にみてください。」、2つ目は「医療人として4月1日の入職、入学を控えています。皆さんの目標とする仕事のスタートを順調に始めることができるように、新型コロナ感染症対策として、これまで通り自重し、外出を極力自粛し自宅に出来るだけ居てください。」、3つ目は、「皆さんは看護専門学校の最後の卒業生です。心細いことはありません。皆さんの先輩たちが附属の施設には大勢います。今回の閉校は発展的閉校とされ、長年看護専門学校で培われた看護の精神が発展的に看護の現場でも引き継がれることを期待されています。この発展には皆さん自身の発展をも含んでいます。最後の卒業生であることを誇りとし、これからの看護師人生を末永く健康でこのやりがいのある看護師生活を送ってください。」

結びになりますが、卒業生たちのために今日までご指導くださいました先生方、並びに関係のみなさま方に厚く御礼を申し上げますとともに、本日ご出席いただきましたご来賓のみなさまと専門学校教職員と共に、卒業生全員が専門学校の最後の卒業生として、今後の看護師としての成長と活躍を期待させていただき、私の式辞とさせていただきます。ご卒業、おめでとうございます。



卒業証書を手渡す楠本学校長

第110回看護師国家試験結果

3月26日(金)第110回看護師国家試験結果の発表が行われました。附属看護専門学校からは57名が受験し全員が無事合格、合格率100%となりました。なお、全国の合格率は95.4%でした。



学会賞等受賞情報

ライブ部門：高視聴率賞

外科学講座 濱田 円 診療教授

- テーマ 直腸癌根治術【Video シンポジウム】－最新の標準術式を求めて－過不足のないCRM確保を目的としたProne Position first Abdominoperineal Resection
- 授与学会 第120回日本外科学会定期学術集会



優秀演題発表賞

精神神経科学講座 緒方 治彦 助教

- テーマ うつ病患者における末梢血中の循環ミトコンドリアDNAのコピー数とマイクロRNA発現量の関連及び抗うつ薬の治療反応
- 授与学会 第30回日本臨床精神神経薬理学会学術集会



令和2年度日本小児腎臓病学会優秀演題賞(臨床研究部門)

小児科学講座 辻 章志 准教授

- テーマ 特発性ネフローゼ症候群の小児に対するProbioticsの臨床的意義
- 授与学会 第55回日本小児腎臓病学会学術集会



若手奨励賞

小児科学講座 赤川 友布子 助教

- テーマ 膀胱尿管逆流の乳幼児に対する少量抗菌薬とプロバイオティクスの併用による尿路感染症再発効果
- 授与学会 第29回日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会



令和2年度日本小児腎臓病学会優秀演題賞(臨床研究部門)

小児科学講座 木全 貴久 講師

- テーマ 頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与後の遷延性低IgG血症の成因に関する検討：B細胞サブセットの解析
- 授与学会 第55回日本小児腎臓病学会学術集会



2020年度 日本女性腎臓病医の会 研究活動奨励賞

小児科学講座 赤川 友布子 助教

- テーマ 腸内細菌叢を標的とした小児の尿路感染症再発予防法の検討
- 授与団体 2020年度 日本女性腎臓病医の会 研究活動奨励賞

優秀演題賞

外科学講座 道浦 拓 講師

- テーマ 食道がん術後反回神経麻痺の検討
- 授与学会 第74回日本食道学会学術集会



Distinguished Presentations - Oral Award

外科学講座 橋本 大輔 助教

- テーマ The triple-checked criteria for drain management after pancreatectomy
- 授与学会 HBP Surgery Week 2021 & The 54th Annual Congress of the Korean Association of HBP Surgery



領域別高視聴率セッションAward

心臓血管外科学講座 岡田 隆之 講師

- テーマ インターナショナルワークショップ WS-10 高齢化社会における弁膜症手術の適応と限界【International】
- 授与学会 第120回日本外科学会定期学術集会



第4回(令和2年度) Best Reviewer Award授賞者

外科学講座 橋本 大輔 助教

- テーマ 日本外科学会Case Report誌に投稿された論文に対し、多く査読をした査読者に授与
- 授与学会 日本外科学会 学会誌 Surgical Case Reports

32nd Congress of the ESP and XXXIII International Congress of the IAPでの招待講演

臨床病理学講座 大江 知里 講師

- テーマ Detection of multiple cutaneous leiomyomas can bring the diagnosis of hereditary leiomyomatosis and renal cancer
 - 授与学会 日本病理学会
- ※学術奨励受賞者の中から英国病理学会派遣者に選出



優秀賞

外科学講座小児外科 重山 謙 研究医員

- テーマ 全肝脱出を伴う巨大臍帯ヘルニアに対する新たな手術戦略とその有用性
- 授与学会 近畿外科学会



優秀ポスター賞

精神神経科学講座 青木 宣篤 助教

- テーマ ECTにおける各背景因子が発作の質におよぼす影響についての後方視研究
- 授与学会 第33回日本総合病院精神医学会総会



優秀賞

関西医科大学大学院(リハビリテーション医学講座) 間野 直人 大学院生

- テーマ 下肢装具により麻痺側前方推進力が改善する片麻痺歩行の特徴－人工知能を応用した特徴選択－
- 授与学会 第18回日本神経理学療法学会学術大会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に令和3年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

健康科学教室 木村 稔 教授	朝日新聞朝刊土曜版「be」 (1月16日)	木村教授が「写真俳句」の機能効果や作りなどを紹介した記事で取材を受け、写真を取るために出かけて俳句を考えながら歩くことを「認知症の予防にとってもいい」と評価し、「感染予防をしながら、身体活動の維持を心がけてほしい」とコメントしました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	日経メディカル ONCOLOGY (1月21日)	里井診療教授が第51回日本脳腫瘍学会大会のシンポジウム「切除可能脳腫瘍に対する術前治療」に登壇し、術前治療として化学療法と化学放射線療法とのどちらが優れているのかを明らかにするための第Ⅱ相臨床試験について解説したこと、どちらの治療法も効果があったと認められ、第Ⅲ相臨床試験を実施するに値する有望な方法であると結論づけたこと、などが紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	Medical Tribune (1月25日)	里井診療教授が第51回日本脳腫瘍学会大会において、同学会脳疾患臨床研究推進委員会が行った80歳以上の高齢がん患者に対する治療法について、80歳以上の切除可能がんでは、体力など手術に問題がなければ脳切除で生存期間が延長し、集学的治療の導入によりさらなる予後改善が期待できることを明らかにした調査結果を報告したことが掲載されました。
看護学部 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (1月30日)	三木教授が、訪問看護現場でのヘルパーの傷害致死事件を取り上げた記事において、安心して働ける安全な環境づくりが大切であること、複数人での訪問を原則とするべきで、国などが補助を充実させることが有効と訴えたコメントが掲載されました。
精神神経科学講座 齊藤 幸子 講師	NHK土曜ドラマ「六畳間のピアノマン」 (2月6・13・20・27日)	齊藤幸子講師が精神医療考証を担当したドラマ(全4回)の放送がありました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (2月8・9・10・11・12日)	木村教授が健康ライフのコーナーに出演しダイエットをテーマに解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	朝日新聞DIGITAL (2月24日)	木村教授が、加齢や病気で全身の筋肉量が減って筋力や体の機能が落ちる「サルコペニア」に関し、原因や対策を解説し、コロナ禍でも活動量を減らさないよう呼びかけました。
健康科学教室 木村 稔 教授	読売新聞オンライン (2月27日)	木村教授が、「からだCafe」医療と健康のページにおいて、加齢などにより筋肉量が減って全身の筋力が低下した状態「サルコペニア」に関し解説したコメントが掲載されました。
附属病院	毎日新聞オンライン (2月28日)	本学附属病院が、医療プレミア特集「がん免疫療法 国内で治療始まる」において、米国国立衛生研究所(NIH)小林久隆・主任研究員の開発した光免疫療法が、治験結果を待たずに条件付きで承認される特例制度の適用を受けたことに伴い、実際の治療が開始される予定の医療機関として紹介されました。
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	友の会だより (大阪肝臓友の会) No.188 (3月1日)	海堀診療教授が取材を受け、「C型肝炎非代償性肝硬変の患者を対象とした肝臓再生療法」と題する臨床研究の概要説明と研究の流れ、参加条件などが掲載されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	月刊茶の間 2021早春号 (3月1日)	宮下診療教授が、連載企画「健康講座 3月号」の取材を受け、誤嚥性肺炎について、病気が起こるメカニズムや症状、普段の注意点、予防法などを解説した記事が掲載されました。
腎泌尿器外科学講座 池田 純一 大学院生 内科学第三講座 中丸 洗 助教	朝日新聞 朝刊 (3月3日)	池田大学院生と中丸助教が、2020年度がん研究助成奨励金【臨床の部】(公益財団法人大阪府対がん協会)を受賞したことが紹介されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	朝日新聞 朝刊 (3月3日)	木村教授が、「サルコペニア」に関し、原因や対策を解説し、コロナ禍でも活動量を減らさないよう呼びかけました。
国際交流センター 鈴鹿 有子 学長特命教授	読売新聞 夕刊 (3月3日)	鈴鹿学長特命教授が、連載企画「医なび」において「騒音性難聴」の原因や治療法、予防法などを解説し、イヤホンなどの使い方に注意を促し、小さな音で聞くなど耳を守る習慣づけを勧めました。
附属病院	GemMed (旧メディア・ウォッチ) (3月3日)	本学附属病院が、「看護師の特定行為研修」において「研修できる特定行為区分」の血糖コントロールに係る、薬剤投与関連の1行為の追加が承認されたことが掲載されました。
附属病院	ひらかたつーしん (3月4日)	附属病院が、2021年1月から従来の放射線治療に加えて超短期照射・超高リスク前立腺がん治療戦略の提供を開始したことが取り上げられました。
附属病院健康科学教室 木村 稔 教授	NHK「ニュースはっと関西」 (3月5日)	木村教授が、コロナ禍で筋力が減少するサルコペニア患者が増加していることに関して取材に応じ、動脈硬化や糖尿病などの生活習慣病のリスクが高まる危険性を指摘した他、かかりつけ医の受診をすすめました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	Medical Tribune (3月18日)	里井診療教授や世界116ヶ国1674施設の約15万人の外科医・麻酔科医が参加した国際共同研究が取り上げられ、検診結果が紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	時事通信社「JIJ.COM」 (3月19日)	里井診療教授や世界116ヶ国1674施設の約15万人の外科医・麻酔科医が参加した国際共同研究が取り上げられ、あわせて里井診療教授のコメントが掲載されました。
神経内科学講座 薬師寺 祐介 教授	読売新聞 夕刊 (3月31日)	薬師寺教授が、連載企画「医なび」において緊張型頭痛の発症の仕組みや症状、治療法などについて解説し、治療を重ねても悪化する頭痛がある場合は専門的な診察を受けるよう呼びかけました。

《新型コロナウイルス感染症関連》

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (1月5・6・7・8・11・12・13・14・18・19・20・21・22・26・27・28日、2月1・2・3・4・5・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・22・23・25日、3月1・2・3・4・8・9・15・23・26・31日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「ミント」 (1月5・6・12・13・18・19・21・26・28・29日、2月2・3・5・9・16・17・18・25日、3月1・2・5・10日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「胸いっばいサマッ!」 (1月16・30日、2月13日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	NHK「ニュースはっと関西」 (2月16日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (3月29・30日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
衛生・公衆衛生学講座 西山利正教授	読売新聞 朝刊 (1月4日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
衛生・公衆衛生学講座 西山利正教授	日本経済新聞 朝刊 (1月14・21日、2月2・23日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
衛生・公衆衛生学講座 西山利正教授	毎日新聞 朝刊 (2月27日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。
衛生・公衆衛生学講座 西山利正教授	読売新聞 夕刊 (3月2日)	新型コロナウイルス感染症に関して専門家の立場からコメントしました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

令和3年4月、いよいよリハビリテーション学部理学療法学科、作業療法学科が開設しました。関西医科大学の新たな1ページの幕開けです。本学創設の地、牧野キャンパスに新たに竣工したリハビリテーション学舎は真新しく、両学科の様々な演習施設がそろっています。淀川沿いの校方とはまた異なる趣きの、緑豊かなキャンパスです。新学舎に新入生の姿を見たときは感慨もひとしおでした。(さ)

関西医科大学広報 Vol.53

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和3年5月15日(土)発行